

災害に強いまち笹川をめざして～外国人住民と一緒に考える

A
01

実践場所	三重県	災害時外国人サポーター研修	実践者	太田 治希
対 象	会場周辺住民(日本人+外国人)		時間数	2時間半
所 属	三重県尾鷲県民センター	担当項目	研修全体のうちのグループワーク部分	
ねらい	○ 地域の外国人・日本人住民が顔を合わせ、コミュニケーションをとる場をつくる。 ○ 「災害に強いまち笹川」をつくっていくために、地域や自分たちがしないといけないことを考えてもらう。			
実践内容	プログラム			備 考
	【研修全体の構成】 ○ 災害時の心構えについての紹介(1時間45分) 四日市市(主催者)、県国際交流財団(企画・運営)が担当 ○ グループワーク1(1時間) ・自己紹介の後、非常食と一緒に食べる(昼食) ・展示してある非常食、非常持出し袋、非常備蓄品等の説明 ○ 地域の声を聞く(20分) 自治会代表者、ブラジル人女性が担当 ○ グループワーク2(1時間) ⇒ 発表(30分) 災害についての不安は何か? どうすれば不安を解消できるか? 【担当したグループについて】 <u>1 参加者</u> 会場周辺等在住ペルー人3人、自治会関係者(日本人)2人、日本語教室先生(日本人)1人 計6人 <u>2 主な意見交換の内容</u> ・自治会活動について ・多言語情報について ・防災に関心の低い外国人住民について ・居住・防災に関する情報共有について、その他			参加者数: 外国人 42人 日本人 31人 ファシ 10人 計 83人 通訳言語: ポルトガル語 スペイン語 グループワーク: 外国人・日本人混成(6~10人) ×10組を編成

絵画で国際交流 ～アートマイルの取り組み～

実践場所	岐阜県	岐阜聾学校	実践者	大前 奈津香
対 象	中学部 2 年生		時間数	25(現在21時間目)
担当教科	音楽・総合的な学習		実践教科	総合的な学習
ねらい	海外の学校の生徒とのやりとりや絵画の共同制作を通して、異文化を理解し世界に興味をもつ。相手を理解するとともに、自分の思いを伝えようとする。			
実践内容	時間	プログラム		備 考
	1	【アートマイルとは】 ①概要説明 ②過去の作品紹介(アートマイル協会HP)		※アートマイル…海外の学校とインターネットで交流し、相互理解を深めた後、キャンパス(1.5m×3.6m)に半分ずつ絵を描き、協力して一枚の絵を完成される国際交流学习 ※返信メールは授業で紹介するほか教室にも掲示する ・色鉛筆、ペン ・キャンパス(ビニールテント地 1.5m×3.6m) ・ターナー色彩(株) テントアート 8色 ・Google 翻訳 ・Infoseek 翻訳
	2	【自己紹介カード作り】 英語で自己紹介を考え、カードを作成する。→(交流校へ郵送)		
	2	<u>交流校の決定</u> 【相手の国や地域を知る】 インターネット、本等で調べ学習を行う。		
	4	【学校紹介・学校行事紹介】 ①英語で紹介内容を考える。添付するための写真を準備する。 ②メールにて送信する。		
	2	【構図決め】 ①テーマ(今年度は「絆」)について話し合う。 ②「絆」を表す絵を、一人一人がそれぞれ描いてみる。 ③それをメールで送り、一番良いと思う絵を相手に選んでもらう。		
	5	【描画】 (選ばれた絵の作者は下絵を描き、皆に指示をだす)		
	3	【文化祭の準備と発表】 アートマイルの説明・やりとりしたメールの紹介・相手校からの自己紹介カードと描いた絵を展示し、来客に説明、感想をもらう。 <u>※12月末に絵を郵送 → 現在は相手校が描画中</u>		
	4	【相手をもっと知ろう】お互いに質問をし、答え合う。		
	2	【まとめ】 交流校より戻ってきて完成した絵を鑑賞し、今までの交流内容を振り返る。		
成 果	英語でのやりとりを最初は面倒がっていた生徒も、メールに返信がきて、相手とのやりとりが目に見えてくると、次第に積極的にメールを行うようになり、海外への興味も持つようになった。直接的な交流ができたことは、生徒たちにとって貴重な経験と自信になったようである。			
課 題	交流校が決定するのが予定より遅れることもある。決定前から自己紹介、学校紹介等できることは進めておく必要があった。また相手校がルーズな場合もあり、交流が思うように進まないこともある。協会に連絡すると策を講じて下さるが、余裕をもった交流計画が必要である。			
備 考				

ワークショップで国際交流

A
03

実践場所	愛知県	愛知県立南陽高等学校	実践者	加古 琢磨
対 象	高校1・2年生 留学生(大学生)	時間数	90分	
担当教科	地理歴史・公民	実践教科	アクティブチャレンジ事業	
ねらい	勤務校の生徒と留学生が一緒になってワークショップをすることにより、勤務校の生徒には日本の良さや問題点を再発見させ、留学生には日本について理解を深めてもらう。また、国による価値観の相違点や共通点を発見してもらう。			
実践内容	時刻	プログラム		備 考
	10:00	アイスブレーキング 「4つの私、1つはウソ」		マジック、ポストイット
	10:15	1ー1 日本のいいところ、よくないところ 日本のいいところ、よくないところを各自ポストイットに書き出す。		
	10:20	1ー2 仕分けをしよう 1ー1で出たものを、各班で日本のいいところ、よくないところに仕分けし、B紙に貼りだす。		
	10:25	1ー3 いいところベスト3、よくないところワースト3 仕分けをした中から、各班で日本のいいところベスト3、よくないところワースト3を決めて、前のホワイトボードに書き出す。		マーカー ホワイトボード
	10:30	1ー4 発表 各班の代表が前に出て、選んだ3つの紹介と選んだ理由を発表する。		
	10:40	ティータイム・休憩 留学生には可能ならばあらかじめ出身国のお菓子を持ってきてもらうよう依頼。学校側からはお茶菓子やあらねなど日本のお菓子を出し、ティータイムでも国際交流した。		
	10:55	アイスブレーキング 東日本大震災が起きたとき、どこで何をしていたのか各自発表する。		マジック、ポストイット
	11:02	2ー1 大地震が起きたら、持っていきたいものは何？ 各自ポストイットにできるだけ多く書き出す。		
	11:08	2ー2 同じものをまとめよう 2ー1で出たものをB紙に貼りだし、グループで話し合っって同じものをまとめ、ペンで囲う。		
	11:17	2ー3 捨てるものを決めよう 2ー2でまとめたものの中から、グループで話し合っって捨てるものを三つ決め、前のホワイトボードに書き出す。		マーカー ホワイトボード
	11:26	2ー4 発表 2ー3で捨てることと決めたものを、その理由とともにグループの代表者が発表する。		
	成 果	ワークショップが始まる前やティータイムの時間などに、本校の生徒の多くが留学生に積極的に話しかけたりするなど、国際交流をすることができた。また、ワークショップにより、あらためて日本について考えてもらうことができた。		
課 題	短時間に二つのプログラムを入れたため、慌ただしくなり、延長を余儀なくされた。特にグループで話し合っって何かを決める場面の時間配分が短く、何度も制限時間を延長した。今後は話し合いをする時間をもっと多くとるべきだと感じた。			
備 考	アクティブチャレンジ事業とは、「県立学校教育活動活性化推進事業」のことで、勤務校は「魅力ある授業づくり部門」5校のなかの1校に選ばれ、国際理解教育の充実を目指している。午前中は上記のワークショップを行った後、午後は、同窓会・PTA主催の餅つき大会、茶華道部・「茶道入門」という授業の受講生徒によるお茶会が催された。			

タイトル

多様性からよい良いクラスを考えよう

A
04

実践場所	愛知県	名古屋市長小幡小学校	実践者	籠谷 美紀
対 象	小学6年生		時間数	20時間
担当教科	小学6年生		実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	・世界には様々な文化があることを理解し、それらを尊重する態度を養う。 ・自分の周りを振り返り、身近なところにも多様性があふれていることに気づき、違いを認め合ったり、互いを理解しようとしたりすることができる。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1～7	『国際理解教育入門』 1 クイズから世界を知ろう(世界に興味をもつ) ・「国名クイズ」「国名しりとり」「シルエットクイズ」「世界地図をかこう」などを通して、世界の国々に興味をもつ。		写真 地球儀 世界地図
	8	『世界の多様性を知ろう』 2 「こんなトイレ、知っトイレ？」(多様性に気づく) ・世界には様々なトイレの仕方があることを理解し、世界では様々な人がそれぞれの文化をもって生活していることを知る。		写真
	9～15	3 世界のあれこれを知ろう(多様性を知る) ・食事や服装など、自分が興味をもった文化について、世界ではどのような相違点や共通点があるのかを調べ、世界には様々な文化があることを知る。		調べ学習 ・インターネット ・書籍
	16	『多様性について考えよう』 4 クラス内の多様性を確認しよう(身近な多様性に気づく) ・アンケート等を通してクラスも多様な考え・文化をもった人々の集まりであることを知る。		「4つのコーナー」 多様性アンケート
	17	5 もしも多様性がなかったら(多様性の大切さに気づく) ・多様性がなかった場合、世界はどうなるかを考える。 6 多様性に満ちた社会で大切なことは？(コミュニケーションの重要性を考える) ・様々な考えや文化をもつ人とよりよい人間関係を築くためには、何が必要か考える。		派生図「もし世界に多様性がなかったら」 ブレインストーミング
	18	『よりよいコミュニケーションを考えよう』(3学期実践予定) 7 お互いを育てるコミュニケーションを考えよう		言葉の玉手箱
	19	『よりよい人間関係を築くための行動計画をたてよう』 8 クラス内の課題を考え、具体的目標を共有しよう		
	20	9 個人の行動計画を考えよう		
	成 果	これまであまり興味をもっていなかった世界の国々に興味をもつことができた。文化や考え方に違いがあるのは当たり前なことだと肯定的に捉えることができるようになった。クラス内の意見の相違にも寛容になり、態度や言葉遣いに配慮する場面も多く見られるようになった。		
課 題	成果は見られるものの、まだ友達との意見の違いが受け入れがたい場面があるなど、日頃の行動に十分には繋がられていないと感じる。そのため、今後個人の行動計画を作成し、今回学習したことを実際の行動に移していけるようにすることが必要である。また自分の意見を積極的に伝えることもあまり得意ではない。受け止めあえる人間関係を育てると同時に、自信をもって発信できる子どもたちを育てていきたい。			
備 考				

タイ
トル

多文化共生：誇り・心・希望を広げよう！

A
05

実践場所	愛知県	豊田市立西保見小学校	実践者	幸田 隆	
対 象	小学校6年生		時間数	70時間	
担当教科	6年全教科(理科と書写を除く)	実践教科	総合的な学習の時間40、学級活動9、社会7、外国語活動4、国語3、音楽3、行事3、道徳1		
ねらい	1. 自文化(主にブラジルと日本)に関する学習を通して、誇りを高める。「誇りをもって生きよう！」 2. お互いの文化を教え合い、認め合いながら、高め合う関係を築く。「心を伝え合おう！」 3. 希望のある社会を築くために、自分ができることをする。「希望を広げよう！」				
実践内容	時間	プログラム		備 考	
	18 (3) (3) (8) 1 1 1 1 2 1 1 (2) (2) 10 (5) (4) (1) 42 (4) (4) (1) (4) (6) (13) (2) (8)	1. 誇りをもって生きよう！ ① 学校のよさを宣伝しよう！(国語) ② 保見の史跡を訪ねて、地元の誇りを見つけよう！(社会見学) ③ 自分の文化の誇りを見つけよう！(総合) ・ 自分らしさって何？ ・ ○○人としての誇りはどれくらい？ ・ 日本人の誇り・ブラジル人の誇りを予想しよう ・ ブラジル移民の歴史 〈ビデオ視聴「水野龍： そのとき、歴史は動いた」〉 ・ <u>ブラジル人の誇り</u> 〈ブラジル海外研修〉 ・ 日本人の誇り ・ 震災時の日本人の行動に関する世界の評価 〈ツイッター、Youtube〉 ・ <u>ブラジルにおける日系人の評価</u> 〈ブラジル海外研修〉 ④ 日本の伝統芸能(能・和楽器)を体験しよう。(音楽) ⑤ 和の文化を写真で表現しよう。(行事： 修学旅行) 2. 心を伝え合おう！ ① 文化を教え合おう！(学級活動) ・ 個別に題材を選び、調べ学習をしたものを発表 ② 友達からポルトガル語・スペイン語を学ぼう！(外国語活動) ③ 文化の違いを尊重し、高め合おう！「ペルーとともに」(道徳) 3. 希望を広げよう！ ① クラスの絆を深めるためにできることをしよう！(学級活動) ・ クラス憲法作り、ブラジルの遊び、協力ゲームなど ② 戦争の原因を知り、平和に必要な力を学ぼう！(社会) ③ 地球の現実と希望を歌から学ぼう！(音楽) ④ 夢をかなえた地球人から学ぼう！「Mr. K先生とMR. K」(総合) ⑤ 難民問題を知り、カンボジアの子のおもちゃを作ろう！(総合) ④ 学芸会の多文化共生劇を創ろう！ 地域に広げる(総合・行事) ⑤ 児童集会で学びを発表しよう！ 全校に広げる(総合) ⑥ 多文化共生のよさをビデオで伝えよう！ 豊田市に広げる(総合)		誇り新聞作り 郷土資料館専門員 アイデンティティフラワー 4つのコーナー KJ法 テレビ番組ビデオ インタビュービデオ インタビュービデオ 能楽協会名古屋支部 旅館の女将さん 写真 ブラジル・ペルー人児童 資料「ペルーとともに」 ブレーンストーミング グループワーク 歌謡曲のCD 日系ブラジル人教師 NGO幼い難民を考える会 多文化共生アンケート パワーポイントスライド ビデオ	
	成果	学級の児童の約3分の2が、卒業アルバムの文集で、小学校時代の一番の思い出として、多文化共生に関する自分の成長をテーマに選び、作文を書いた。例えば、日本人児童と外国人児童双方が、文化的な違いをネガティブなものとしてではなく、面白いものとしてとらえるようになったこと。また、相手文化のよさが自分の成長につながり、お互いの絆が深まったことへの喜びを表現している作文も多かった。			
	課 題	多文化共生力の系統的に育てていくためには、学年別の年間指導計画を作成し、学校全体を挙げての実践に取り組んでいくようにしたい。これにより、学年間でのスパイラル(反復)学習も可能になり、多文化共生力の定着につながる。			
	備 考	今年度の研究実践のテーマを「多文化共生」として、年間を通して、合科的・関連的・継続的な学習を展開した。			

IV
実践報告シート

Me vs. Us...?? Me for US, Us for Me!!

A
06

実践場所	愛知県	県立千種高等学校	実践者	藤澤 陽子
対 象	高校1年生	時間数	4時間	
担当教科	英語	実践教科	異文化理解	
ねらい	1 異なる文化(バングラデシュ)について知る。 2 文化によって価値観や考え方が違うことに気づき、違いが生まれる理由を考える。 3 異なる価値観や考え方を受け入れ、自分と周囲の両方を大切にする生き方について考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	バングラデシュってどんな国？ ①「バングラデシュ」と聞いて思い浮かぶ3つの言葉 ②ビンゴゲームでバングラデシュを知ろう！ ③バングラデシュについての新発見を仲間と共有		・パワーポイント
	2	互いに助け合いながら暮らす社会 ①バングラデシュのマイクロクレジット活動とは？ ②マイクロクレジット活動の現場を見学？！ スキットから、助け合いながら生きる人々について考える。 ③日本の貧困死 ④バングラデシュと日本を比べて見えてくるもの		・新聞記事 ・スキットのシナリオ (前半のみ準備し、後半は出演者が演じながら作り上げる)
	3	一人では生きていけないから.. ①バングラデシュの早婚問題とは？ ②あなたなら結婚する？しない？ ロールプレイを通じて早婚問題について考える。 ③結婚は個人のこと？家族のこと？ 早婚問題を通じて、個人の尊重について考える。		・新聞記事 ・ロールカード
	4	個人が大切？みんなが大切？ ①個人主義的な価値観と集団主義的な価値観 ②価値観の違いはどこから生まれるの？ ③あなたは個人主義者 or 集団主義者？ 自己の個人主義的な側面と集団主義的な側面に気づく。 ④Me vs. Us？ 自分と周囲の両方を大切にする生き方について考える。		・This is Culture* (南雲堂) * 授業で使用しているテキスト ・英文記事
成 果	・バングラデシュの文化を、さまざまな側面から紹介することができた。 ・スキットやロールプレイなどの手法を用い、生徒が「自ら考え気づく」プロセスを大切にした。			
課 題	・4回目のプログラムに工夫が必要。次回行うときは、個人と集団の在り方について、参加者が多様な観点から考えられるようにアクティビティーを工夫したい。			
備 考	英語の授業の一環として行うために工夫したことー ・スキットやロールプレイを英語で行った。・英文の記事やテキストを利用した。 ・ディスカッションや意見の発表を英語で行った。			

いま、ここに、あなたといるということ

A
07

実践場所	愛知県	幸田高等学校	実践者	山口 亜紀
対 象	高校3年生		時間数	3時間(150分)
担当教科	公民		実践教科	倫理
ねらい	多様な異文化を理解した上で、グローバルな視点に立ち、地球市民の一人として自らにできること、共生の方法を考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	1. 世界の「こんにちは！」 (アイスブレーキング) ◇世界のさまざまなあいさつとジェスチャーが記されたカードを使ってグループ分け→異文化接触ともなうカルチャーショックを体験 2. ボーダレスの時代を生きるとは？ ◇ボーダレスの時代にあつて、異文化理解の必要性を確認する。 3. 『となりのまじょのマジョンナさん』 ◇物語の登場人物から、異質なものに会つた時の私たちの対応の仕方について考える。攻撃的になつたり排除しようとしたりするのはなぜか？逆に、子どもたちが受け入れることができたのは？(グループ) ◇自分ならどんな魔法をかけるか？ ◇マジョンナさんの魔法を手掛かりに、異質なものに対する同化や排除ではない解決策を探る。(グループ→全体)		・あいさつ・ジェスチャーを交わしながら仲間を見つめる。ただし、それぞれタブー・ジェスチャーがあり、そのしぐさをされた人は足踏みをしたり怒ったり、下を向いてその場を去るなど相手には内緒の指示をしかけておく。 ・生徒同士の質疑応答の中で、その後どうなるか、一時的な解決に終わっていないかなどさらに踏み込んで考えさせる。
	2	4. 文化摩擦と国際理解～「風刺画事件」を通して考える～ ◇資料:デンマークのカルステン・キエール監督のドキュメンタリー「風刺画事件を追つて」の一部を視聴。 ◇風刺画事件の概要と当事者たちの主張を読む。 5. 演劇表現① (スクリプト作成) ◇当事者の立場や主張について話し合い、それぞれの「要望」と「本心」(要望の理由)を分析する。 ◇分析をもとに、対立を乗り越えるための対話を想定して、台本を作成。		・頭にひっかかった言葉に下線を引き、その理由を書きとめる。(グループ協議で共有) ・台本作りでは、ウィンウィン型交渉・解決法のポイントを参考にしつて考えさせる。
	3	6. 演劇表現② (全体発表) ◇台本をもとに、配役になりきつて演じる。 ◇他のグループの発表を見て、気づいたことをワークシートに書きとめる。→発表後、質疑応答 7. 異文化を理解する鍵とは？ (全体をふりかえつて) ◇世界市民として必要なコミュニケーション力とはどんな力か、あらためて考える。→カード分類法で、気づいたことを共有する。(グループ→全体)		
成 果	具体的な事例を通して、異文化理解の難しさを実感するとともに、自分自身の中にもある先入観や偏見にも気づいていった。対立が深まる中でいったん閉じてしまつた心を他者に関心するのは難しい。そう感じつつも、スクリプトを作成する中で自分の体験と重ね合わせ、「わかってくれなくていい」と思おうとしている自分の傍らに、他者とのつながりを求めている自分があることに気づく者もいた。私自身も生徒達の活動を見守る中で、「コミュニケーション力」とは他者を受け入れ、受け入れられる力であることあらためてわかり、そのことを生徒達に伝えた。参加型学習によつて、一人ひとりの気づきをみんなで共有し、それぞれがよりよい解決を求めて言葉を紡いでいった。こうした経験が、他者理解を深める一歩となつた。			
課 題	気になるのは、議論の場で相手との関わり方がうまく出来ない生徒が多いということ。言いたいことがあるのだからうまく表現できない、そんな相手に対して励まし合うことがもっとあつてもいいのではないのか。そのような訓練がなされていない。facilitator として工夫する余地はまだある。			
備 考	ブリッドウェル作『となりのまじょのマジョンナさん』 NHK BS特集「民主主義」～世界10人の監督が描く10の疑問～デンマーク『風刺画事件』を追つて」			

タイトル

世界一周マラソン！若者よ大志を抱け！

実践場所	愛知県	大口町立大口南小学校	実践者	青山 翔
対 象	小学2年生		時間数	2学期間
担当教科	小学校全科(専門:体育)		実践教科	体育(休み時間)
ねらい	外で遊ぶことを楽しいと感じさせるためのきっかけ作り。日本、世界、宇宙について知り、関心をもたせる。			
実践内容	回	プログラム	備考	
		1 外遊びの大切さや、運動することの意義について説明する。 2 世界一周マラソンカードの説明をする。(外で遊んだら1つ国をめれる) 3 日本→世界→宇宙という順番で、全てめれたら次のシートを渡していく。 4 最終的には、シートなしでも、外遊びの大切さや、運動することの意義について考えて運動していくように促していく。 世界一周マラソン  日本一周マラソン  宇宙一周マラソンは宇宙ロケット 		
成果	もうこのカードは行っていないが、クラス24名全員、休み時間は、楽しんで外で遊んでいるので、きっかけ作りにはなった。アンケート結果(運動する気持ちが高まった 92%、1年生の時より外で遊んでいる 100%、運動することが好き 92%、世界について興味をもった 98%)			
課題	継続的に行うことに少し根気がいる。日本→世界→宇宙の後どうするかを考えることも必要。			
備考	今回は、外遊びへのきっかけ作りだったが、読書マラソンなど様々な活動に応用できます。			

タイトル

文字が読めないということ

B
09

実践場所	愛知県	KTC 中央高等学院 岡崎キャンパス	実践者	赤堀 育美
対 象	高校 1 年生～3 年生		時間数	45 分
担当教科	—		実践教科	ドリームクラフト
ねらい	世界には文字が読めない人たちがいることを知り、文字が読めないことによってどんな不便さがあるのかを体験する。			
実践内容	分	プログラム		備 考
	15 分	アイスブレーキング ①「世界がもし 100 人の村だったら」の映像を見る ②映像を見て感じたことを発表してもらう		http://www.youtube.com/watch?v=t7F0lzEyUyA
	20 分	アクティビティ ①役割カードをランダムに配布する ②ネパール語で書かれた紙を全員に見せる。「役割カードを参考に、この文字が読める人は、その言葉の通りに従ってください」と指示を出す。 ③大多数の人は文字が読めるので座るが、文字が読めない人は立ったままでいる。 ④ネパール語で書かれた文字の意味を説明し、世界で文字が読めない人の割合を考えてもらう。 ⑤文字が読めなかった人たちに前に出てきてもらい、さらに文字が読めない不便さを体験してもらう。 ⑥文字が読めないとどんな不便さがあるかを考え、発表する。		世界がもし 100 人の村だったら/開発教育協会
	10 分	まとめ どのような国や地域で識字率が低いのか、その理由はなぜかを考えると同時に、文字が読めなくても様々な情報から想像力を働かせることができることや記憶力がいいなどの利点も伝える。		
成 果	「文字が読めないということ」がどういうことかを体験することで、“世界のどこかの誰か知らない人に起きている問題”としてではなく、自分自身に置き換えながら考えることができた。また、「文字が読めない人」に対し、自分にできることは何かを考えることができた。			
課 題	45 分×1 回の実践では時間が足りないと感じた。識字率だけでなく、さまざまな視点から世界を知ることができるようなシリーズで行えるといいと思う。			
備 考				

IV
実践報告シート

未来へと繋がる教育、未来へと繋がる自分

実践場所	岐阜県	中津高等学校	実践者	阿部 梨恵
対 象	高校1年生	時間数	15時間	
担当教科	外国語	実践教科	外国語、LHR	
ねらい	1. UNICORN English Course I Lesson 4 Life is so good の授業を通じて、世界の識字率、教育の重要性について考える。 2. 日本・ブラジルの教育について学ぶ。 3. 未来へと繋がる教育、未来へと繋がる自分について考える。			
実践内容	回	プログラム	備 考	
	①	1. UNICORN English Course I Lesson 4 Life is so good のリスニング問題(世界の非識字率に関する資料)に答える。		
		2. グループで、非識字率について感想・意見を述べる。	グループワーク 写真、 新聞記事	
	②	3. Life is so good の英文を読み、内容を理解する。(アメリカ人のドーソンさんが、97歳まで字を読むことができず、98歳から成人教育のための学校に通い始め、文字を学ぶ過程について)		
	③			
	④	日本・ブラジルの教育について学ぶ。 1. 日本とブラジルの人の繋がりを考える。 日本にいるブラジル人：出稼ぎ、ブラジルにいる日本人：移民 2. 日系人、出稼ぎ帰国児童の写真を見せ、紹介する。 3. 一世の方の話、出稼ぎ帰国児童のインタビューの紹介。 (生徒は、出稼ぎ帰国児童のブラジルの学校で戸惑った話から、両者が異なっていることを理解する。また、一世の方の話から、教育の重要性について理解する。)	フォトランゲージ 資料提示 グループワーク	
		4. ブラジルの教育、学校紹介。日本の教育や学校と比較し、意見・感想を振り返りシートに記入。グループで発表。クラスで発表。		
		5. 次回は未来への繋がりと教育について考えていくと伝える。		
	⑤	未来へと繋がる教育、未来へと繋がる自分 1. 公立高校の学生インタビュー紹介。 2. ブラジル教育事情 くじびき 「もしあなたが～だったら」 グループごとに、どのような教育が受けられるかをくじで決める。グループで自分達の受ける教育の問題点や課題を考える。クラスで発表する。 3. 教育はなぜ重要なのか？グループごとで考え、模造紙に書く。 クラスで発表する。 4. 振り返りシートに記入。グループ、クラスで共有。 5. 教育の重要性を自覚し、自分達は何をするべきか、今後どうしていきたいかを一人一人が「未来に繋がる自分3ヶ条」として記入。 6. クラスで発表。思いを共有する。	KJ法 KJ法 ブレインストーミング	
成 果	高校1年生にはテーマが少し難しいかと思ったが、教育の本質に迫る意見交換、発表ができた。今回学んだこと、感じたことが、今後の高校生活全般に、良い影響を与えてくれことを願っている。			
課 題	高校での3年計画として、国際理解教育を継続していくこと。できるだけ、外国語の授業と関連付けたり、他教科と協力したりして、国際理解教育を継続できるようにしていきたい。			
備 考				

タイトル

開発教育の精神を全ての授業に～協同的に学ぶ～

B
11

実践場所	三重県	松阪市立中部中学校	実践者	楠堂 晶久
対 象	教職員		時間数	1回 3時間
所 属	松阪市教育委員会		実践教科	
ねらい	参加型実践で行う開発・国際理解教育では、学ぶ内容はもちろん、「つながる」実感を持つ、という意味で、参加型の体験そのものも重要である。子どもたちの学校生活で大きなウェイトを占める授業それ自体を「つながる」実感のあるものにしていく、というねらいで取り組んだ。			
実践内容	時間	プログラム		備 考
	20分 20分 30分 60分 50分	協同的に学ぶ授業づくりについて、「すべての子どもに学びの保障を」という「学びの共同体」の理念を中心に解説した。 1 授業者としての教師の仕事、理想の授業について考える 2 「協同的に学ぶ」という言葉へのイメージ 〔参加型プログラム〕 言葉から受けるイメージについて、二人一組で語り合ってもらう。その際、聴き手は、語り手の内容について自分の言葉で語りなおし、返してもらう。 3 「学びの共同体」について 4 自分の授業を振り返る 〔参加型プログラム〕 答えや考えを求めるときの呼びかけや授業時の対応などを付箋に書き出してもらい、グループでカテゴリー分けをする。その後、他のグループの活動から学びあう。 5 「協同的に学ぶ」とは 6 協同的に学ぶ授業づくりのために 7 授業と日常をつなぐ 「協同的である」ことを授業全体で取り組むことが、開発教育、国際理解教育のベースとなる。どれだけ「ともに助け合って取り組むことが大切」と訴えても、子ども達の日常が「競争」では意味がない。「競争」ではなく、「協力」によってこそお互いに力がつくことを実感させる、そのための授業づくりについてともに学んだ。		パワーポイントでスライド提示し、参加型の活動を入れながら解説した。 シンク・ペア・シェア ラウンド・ロビン KJ法
成果	参加型のプログラムにすることで、先生方の表情も柔らかく、同僚からお互いに学びあう姿が見られた。実践者も、単なる講演形式より実際に体験してもらいながら説明するほうが伝わりやすいと感じた。			
課題	協同的に学ぶことの有効性や、子どもの変化を具体的に示すことができず、その必要性を強く実感してもらうまでには至らなかった。また、時間配分を誤り、説明する時間がどうしても長くなってしまったので、受身の研修になった部分があった。			
備考	【参考書籍】教師たちの挑戦—授業を創る、学びが変わる(佐藤学・小学館)、習熟度別指導の何が問題か(佐藤学・岩波ブックレット)、公立中学校の挑戦—授業を変える学校が変わる(佐藤雅彰・佐藤学・ぎょうせい)、中学校における対話と協同(佐藤雅彰・ぎょうせい)教師の話し方聴き方(石井順治・ぎょうせい)等			

IV
実践報告シート

タイトル

学ぶことは自分の夢を育てる～新たな自分探し発見！～

B
12

実践場所	岐阜県	大垣日本大学高等学校	実践者	鈴木 智博
対 象	高校1年生		時間数	4 時間
担当教科	英語		実践教科	英語 I・LHR
ねらい	・学ぶことは自分の心を育て、夢を考える一歩につながることを意識させる。そして、自分がどうして今、学ぶことをしなくてはならないのかを考えるきっかけになるようにする。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1時間目	「学ぶ環境の違いから気づく、学びの目的を考える」 ・ 理想の学校(これがあったら良いなと思うこと)について3つ挙げる。 ・ グループ内で3つずつ挙げた内容をまとめ、発表する。 ・ 理想の学校をイメージ図にする。		ブレインストーミング (グループ内) KJ法 イメージ図
	2時間目	「環境が違っても生き生きと夢を語る人間のパワーに気づく」 ・ 訪問をした学校の写真を見せ、印象を挙げさせる。 ・ 学校である写真だと伝え、学校で学んでいる生徒たちになったつもりで夢を考えてみる。 ・ 理想の職業を1つ決めて、グループ内で共有する。		ブレインストーミング (グループ内) ロールプレイ
	3時間目	「教育を受けることの意味に気づき、自分の夢を考える」 ・ 理想の職業を挙げ、絵で内容を表して共有する。 ・ 世界の教育問題について考える。資料を読み取り、課題解決のために何をすればよいか考える。		力の分析
	4時間目	「環境の違いがあったとしても、夢をもつことの大切さに気づく」 ・ バングラデシュの子どもが書いた絵を使い、その子になりきって夢を語る。 ・ 小さかったときの夢を振り返り、その理由を3つ挙げる。 ・ 自分の将来設計を考える。(時間があればグループ内で共有していく)		なりきり自己紹介 タイムライン
成 果	・バングラデシュに暮らす人々と自分たちが生活をする毎日との比較をするきっかけになれたことが大きかった。今回学びを通して感じたことをこれからの学校生活に生かしてもらえればと願う。			
課 題	・単発的な時間でしか取り組むことができなかったのも、三年間を通じた国際理解教育の授業を研究していくことが必要だと感じた。まず、今回のバングラデシュ研修で得たことを今後も生かしていくことが課題。			
備 考				

タイトル

もしも、あなたが外国で暮らしたら…

B
13

実践場所	三重県	アスト津	実践者	西山 真友子
対 象	高校生・大学生・一般	時間数	1時間	
担当教科	特別支援学校 高等部	実践教科	-	
ねらい	①外国で自分が生活することを想像し、外国人としての自分の立場を体感する。 ②個性や価値観の異なるさまざまな人とのコミュニケーションで心がけたいことを考える。			
実践内容	時間	プログラム		備 考(準備物)
	5分	☆名刺づくり 参加者に呼ばれたい名前(ニックネーム)を書く。		・マジック、紙
	10分	☆アイスブレーキング「4つの私、1つはうそ」 自己紹介をクイズ形式で行う。		・マジック、紙
	20分	☆ワークショップ テーマ:「もし、あなたが外国で暮らすことになれば、どんな良いことがあるだろうか、またどんなことに困るだろうか?」 →①ポストイットに自分の考えを書く。 ②考えをみんなに発表する。 ③発表されたそれぞれの考えを、KJ法で分類する。 ④2つのグループの代表が発表し、全体で共有し気づきを得る。		*参加者を2つのグループに分ける。 ・ポストイット マジック 模造紙
	15分	☆ロールプレイ テーマ:「日本人の私は外国で働いている。職場の上司や同僚はもちろん外国人。文化背景が異なり、自分の常識や非常識が通用しなくて困ったことが起こった!さて、どうする?」 →私か上司のどちらかの人物像と状況設定が記されているカードを参加メンバーに渡す。役になりきって、相手と話し合う。どうやったら相手とお互いに歩み寄ることができるか、それぞれの立場から考える。		・役割カード
	10分	☆ロールプレイの感想をグループで発表。 コミュニケーションについて考える。今日の感想をアンケートに記入する。		・アンケート用紙
成 果	アイスブレーキングを行ったり、少人数のグループを作ったりしたので、発言しやすい雰囲気が生まれ、年代や立場、国籍にとらわれずさまざまな意見が出された。その意見を全体で共有することで、参加者は新たな気づきを得たようだった。			
課 題	自ら気づきを得て、今後どう行動していくかを考えるため、他の人との考えを共有し、本日のワークショップの振り返りの時間をもっと多く設定する必要がある。急遽、予定時間より持ち時間が短くなってしまったので、ファシリテーターには内容を絞っていく臨機応変さが求められる。			
備 考	留学生の参加者もあり、異文化の中で暮らすことの良さ・困難さについて実体験から発表してくれた。このことは、異文化理解とコミュニケーションを身近に感じることに繋がった。			

IV
実践報告シート

タイトル

夢の地球学校を描こう

B
14

実践場所	愛知県	みあい養護学校	実践者	星野 百合子
対 象	高等部 1年(7名)		時間数	10時間
担当教科	家庭科		実践教科	生活単元学習
ねらい	世界の学校で起きている問題を写真で取り上げて、物・友達・家族の大切さに気付く。 夢の学校を描くことで、自分達で主体的に学校を創り上げる気持ちを育む。 「今日のGood賞」「友達の良いところ日記」を書くことで、友達の良い面を見つけられるようになる。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	0	日直が帰りの会で、友達の頑張った姿を発表するGOOD賞や、クラスの友達7人の頑張る姿を書く日記を9月より毎日行う。		2学期間、毎日
	1	<u>世界の学校で起きている問題を知ろう</u> 地球学校を見て、水・電気・給食の使い方を考え直そう。		井戸水やランプの下で勉強する写真。 いじめ問題のDVDを見る。 仕事で学校に通えない子などの問題を話す。
	2	地球学校を見て、友達との付き合い方を見直そう。		
	3	地球学校を見て、家族に感謝しよう。家族との関わりを楽しもう。		
	4	もし自分が地球学校の校長先生になったら、どんな学校創りがしたいか考えよう。		
	5	<u>夢の学校を創ろう</u> 夢の地球学校を描こう。		学校は自分達が創るものという意識を育めるよう、言葉をかける。
	～	・ 四つ切画用紙に絵の具で、自分の好きな事などを取り入れた夢の学校を描く。		
	9	・ 自分の気持ちをぬり絵で表すことが得意な生徒には、子どもの絵を提示して好きな絵を選んで塗り、貼り付けることで絵を完成できるようにする。)		
	10	<u>夢の学校を発表しよう</u> 自分の夢に描いた学校を、友達の前で発表をする。描いた理由や誰が何をしているか、どこで何ができるかを伝える。		一人一人の絵を褒めあう。
0	通知表作りをしよう。良いところ日記を振り返り、友達に通知表を送ろう。頑張る姿を褒めて2行程度で書いてプレゼントする。		輝く姿を友達同士で褒める通知表。	
成 果	クラスで友達の問題点や他の先生にしかられた事を報告する生徒が多かったが、友達の頑張る姿や褒められていたことを報告するようになった。学級の話話が、いつも嬉しいニュースに溢れて明るい雰囲気になった。学校行事(みあいフェスタ)を主体的に取り組めた。			
課 題	自分自身を褒めたり、反省したり、認めたり、励ましたりして、他者の言葉や環境にめげない強い心を育てたい。			
備 考	クラス7人は話すことが得意・聞くことが得意・書くことが得意・選ぶことが得意・動きや表情で思いを伝えることが得意など、様々で、一人一人の得意な方法で理解でき創造できるように支援した。			

タイトル

ハナミズキ ～やさしさを交換しよう～

B
--

実践場所	岐阜県	県立揖斐高等学校	実践者	高田 剛
対 象	高校2年生	時間数	2時間	
担当教科	理科	実践教科	LHR	
ねらい	・ことばを使わないコミュニケーションもあることに気づく。 ・戦争やテロだけでなく、身の回りにも対立があることに気づくことができる。 ・対立解決のために、どのように行動すればよいか考えることができる。			
実践内容	回	プログラム	備 考	
	1	アイスブレーキング ①バースデーラインアップ ことばを使わないで、誕生日順に輪をつくるように指示する。 ②以心伝心ゲーム お互いの手をつなぎ、自分の手が握られたら、次の人へ伝えるように指示する。	ことばを使わないコミュニケーションを体験 協力の大切さ 達成感を味わう	
	2	ハナミズキを求めて ①一青窈のハナミズキの CD を聞き、ハナミズキの特徴のヒントから、校庭のどこかにあるハナミズキを探しに行く。 ②ハナミズキを観察し、気付いたことをみんなで共有する。		
	3	一青窈のハナミズキを読み解く ①一青窈のハナミズキの歌詞を、歴史や生物学的視点から読み解く。 ②一青窈のハナミズキの歌を絵で表現してみる。	CD・歌詞カード 模造紙・マジック	
	4	憎しみの連鎖とやさしさの連鎖 ①自分の嫌な部分を周りに伝えてしまった経験を説明する。 ②自分の良い部分を周りに伝えられた経験を説明する。	A4 用紙・マジック	
	5	思いやりを伝えよう ①自分の良いところややさしさを周りに伝えるためのコミュニケーションの方法を書き出し、ランキングする。 ②これからの生活で、どのようなコミュニケーションを心がけていくのか、行動計画づくりを行う。	模造紙・マジック・付箋 模造紙・マジック	
成 果	新しい発見や感動などがあり、生徒のモチベーションを高めることができた。実践後、学校の外でもハナミズキ探しをした生徒もあり、多少なりとも生徒を動かすことができた。			
課 題	芸術・生物学・歴史など、複合的な分野を活用したプログラムとなったが、参加型の手法を効果的に活用できておらず、各アクティビティの内容とつながりをもっと工夫する必要がある。			
備 考	一青窈がハナミズキの詩を書いたのは、9・11 のテロ事件がきっかけでした。「何かもっと人と人はやさしさを交換できないものかなあ」と考えながら見つけたのが、二子玉川のハナミズキです。約 100 年前の明治 45 年、東京市長だった尾崎行雄がアメリカに桜を贈った返礼として贈られたのがこの木。ワシントンのポトマック湖畔は桜で彩られ、日本の家庭や校庭にはハナミズキが花をつけている。何年もかかってお互いの思いが、今も形として目に見え、花として実を結んでいるというのが美しい。「ハナミズキ」は自分の大切な人とその人の好きな人が、せめて 100 年続けばいい、そういう願いを込めて創られました。			

タイトル

知ろう・作ろう世界の人々との「絆」

B

--

実践場所	静岡県	静岡市立中田小学校	実践者	野澤 佳代
対 象	小学3年生		時間数	2時間(45分×2)
担当教科	3年生担任		実践教科	道徳
ねらい	震災を通してわかった世界の人とのつながり「絆」を知る活動を通して、遠くに住む世界の人々と仲よくしていこう、助け合っていこうという気持ちを育てる。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	外国の学校・子供たちの様子を知ろう ・ウガンダの子たちは、みんな笑顔で元気がよさそう ・タイの子は、きめられた机がなさそう。 外国の人々と私達とのつながりってあるのかな ・輸出入でつながっている。・旅行に行った時友達になれる。 ・タイの洪水があった時に、助けたというニュースを見た。 震災の後に届いた外国の人々からのメッセージや募金の写真をみて感じたこと話し合おう。(一人一枚ずつの写真)  ・すごくうれしくなった。力がわいてきた。 ・見守られていることがわかった。 ・今度は助けたいと思った。		道徳副読本より タイ・ウガンダ・中国・オーストラリアの学校の子供たちの写真
	2	いろいろな国の人がたくさんの募金やあったかいメッセージをくれたのはなぜだろう。 →震災があったから、助けてもらった・「絆」ができたのではなくて、今までのつながり「絆」があったから、助けてもらえたんだ。 これからも、遠い国の友達との絆を大切にするためにしていきたいこと書こう。→ 一つ決めて発表しよう。 ・困ったことがあったら、今度は、私たちがメッセージを送ったり、募金したりしたい。恩返ししたい。 ・いろいろな国の人と仲良くしていきたい。 ・助け合っていけば、世界は平和になると思う。		世界の絆グラフより フォトランゲージ JICA の活動のポスターや、冊子
成 果	困っているから・かわいそうだから助けたいというのではなく、私たちも助けてもらっている、日ごろから仲よくする・助け合っていくことが大切だという考えを持った子がたくさんいたこと。			
課 題	単発の授業になってしまったが、他の教科とつなげたり、継続した授業をしたりしていきたい。			
備 考				

タイ
トル

Bom Dia! Brasil! こんにちは！ブラジル！
～違ってももしろい！日本とブラジル つながっていたんだ！日本とブラジル！～

**C
15**

実践場所	静岡県	静岡県立清水特別支援学校	実践者	池田 美奈子
対象	中学部 1 年生		時間数	31 時間
担当教科	中学部 1 年生担任		実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	◎ブラジルと日本の食生活・食習慣などの相違点を楽しみながら友達と一緒に見つけ出すことを通して ーブラジルという異国に興味を持ったり、自分の住んでいる国について振り返ったりすることができる。 ー異文化への理解や気づきを深める中で、自分との相違点を肯定的に捉え、楽しむことができる。 ー日常生活の中で、新しいもの(人)や自分と異なるもの(人)にも積極的に関わろうとすることができる。			
実践内容	回 ()は時間数	プログラム		備 考
	第一次 (1～4)	●おやつクイズ！(食から気づく外国) ・ブラジルのお菓子を食べて、お菓子のパッケージを見て、普段自分たちが食べているお菓子と比較 ・静岡市内に住むブラジル人マルコスさんからのビデオレター(ブラジルのことを勉強しているみんなと友達になりたい。もっとおいしいブラジルのお菓子を知っているから教えてあげる という内容)を見て、返事の手紙を書く。(他者とのかわり)		ハンズオン ・ブラジル産のお菓子 ・対批表(自分たちが普段食べているおやつとの比較)
	第二次 (5～10)	●ブラジルクイズってどんな国？～僕たち、私たちと比べてみよう！～ ・国旗／位置／遠さ／広さ クイズ ・ブラジルと日本の食生活(朝食 昼食 おやつ 夕食)、食習慣(食事で飲むもの 使うもの 盛り付けなど)の比較 ・お米の違い(見た目 味 におい) 日本米とブラジルで食べられるお米の炊き比べ ・日本茶とアサイーの比較 ここにでてきた疑問をマルコスさんに質問してみよう！		グループワーク 対批表 フォトランゲージ ハンズオン ・ブラジルの国旗 ・地球儀 ・生活表(ブラジルの生活表は、現地のアンケート調査と現職教員派遣中の先生に協力依頼)
	第三次 (11～19)	●マルコスさんと友達になろう！(人とのかわり 国際交流の体験①) ・マルコスさんに、聞きたい質問を考え、発表する。 ・マルコスさんに日本のおやつ「みつ豆」を作ってもらって差し上げることを通してかわる。 ⇒ 生徒の実態に応じた二つのグループ分け。 ・マルコスさんからブラジルの写真やパワーポイントを見てブラジルの概要をさらに深める。 ・ブラジルのお菓子の試食や、考えた質問をマルコスさんにしてみよう		ブラジルの国土に日本の国土23個分を実際に1つずつあてはめる。 ・朝食 昼食 おやつ 夕食のアンケート調査(保護者に依頼)
	第四次 (20～26)	●マルコスさんにありがとうを伝えよう！～マルコスさんが喜んでくれるためには？～ ・マルコスさんにお礼の手紙を書く(紙すきとアマゾンペーパーの紙の比較) ・マルコスさんが紹介してくれた「プリガディオ」を内緒で作って、プレゼントする。(プリガディオ作り)		・日本米 VS インディカ米 ・日本茶 VS アサイー ・ブラジル人気のお菓子やパネトーネの試食やブラジル産の肉の調理(マルコスさんの協力)
	第五次 (27～30)	●マルコスさんともっと仲良くなろう！(人とのかわり 国際交流の体験②) ・マルコスさんとブラジルの料理を(肉料理 キャッサバ粉)作って食べよう。 ・おいしいお米の炊き方を教えてもらおう(米の調理方法の違いを知る) ・マルコスさんに日本のお米(おにぎり)やブラジルのお菓子(プリガディオ)差し上げよう。		・プリガディオ作り ・アグロフォレストリー
	第六次 (31)	●まとめ ・ブラジルのことを勉強して楽しかったこと、自分が頑張ったことを振り返り、発表をし、友達と共有する。 ・次への学習へのつながり ⇒ 2月にALTの先生が英語を教えるよ！どこの国かな？世界地図や地球儀を使うことができるよ。		・アマゾンペーパープロジェクトと作業学習(紙すき)の和紙の比較
成果	・本単元でねらいの『「違い」を肯定的に受け止め、楽しむことについて、『違い』を否定的・差別的に受け止める生徒はおらず、今までになかった生徒のよいあらわれが見られ「えっ！？」「へえ～」といった率直なリアクションや、「〇〇したい」などと自分から意思表示をしたり、自ら挨拶をするなどの積極的に人とかわりするという肯定的な姿が見られた。生徒たちの実態には差があるが、「体験」から「気づく」という学習内容を設定したことで、どの生徒も授業を楽しみにしていた。またブラジル人との交流を体験したことでよりブラジルが身近になり、興味を示す生徒が増えた。1月末の学習発表会では生徒たちが学習したことを生徒の言葉で地域の人に発表するという機会を設けさらに学習を深めることができた。 ・本授業後、外国語活動で ALT(アイルランド出身)と交流する機会が設定され、出身地を世界地図を広げて確認するなど、ブラジル以外の国にも興味を持って自分で世界地図等で確認しようとする生徒もいた。			
課題	・本授業で学んだことが、単発で終わらず今後につなげるためにはその後の学習、生活指導に教員がどのように生かしていくかが今後の課題である。中学部 3 年間でつけたい力や願う姿等を考えた個別の指導計画との関連、それを具体化する授業者に加え、多くの教員で創りあげていくことが大切である。			
備考	・環境設定: 本単元の実施中は、教室を 1 部屋改装し、「ブラジルルーム」を作った。(「JICA ブラジル BOX」を借りた) 授業以外でも休み時間にブラジルのハンモックに乗ったり、ブラジルの楽器で遊んだりする体験をした。他学年の生徒も興味を示し、部屋に来る生徒もいた。 ・静岡県国際交流員派遣事業との連携: 授業を通して生徒が体験したことや興味を持ったことをより身近に感じてもらえるように、外部との連携を活用した。静岡市内に住む日系3世のブラジル人横山マルコス氏(国際交流員 静岡県庁多文化共生課勤務)との交流を設定した。			

実践場所	愛知県	日本福祉大学付属高校	実践者	榊原 智穂
対 象	高校生		時間数	1時間半
担当教科	英語・総合・国際協力部		実践教科	国際協力部
ねらい	・「豊かさ」とは何かを考えさせる。 ・「持続可能な社会」とはどんな社会なのかを考えさせる。 ・「豊かさ」と「持続可能」をキーワードに、将来、自分たちがどのような環境で暮らしていきたいか、また暮らすことが望ましいのかを考えさせる。 ・自分たちが望ましいと考えた未来づくりのために、今、何ができるのかを考えさせる。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	10	①▶「豊かさ」ってなんだろう？ ・「豊かさ」のイメージを派生図にする。		B紙・ポスカ ・各グループのアイディアを共有する B紙・ポスカ ・各グループのアイディアを共有する  画用紙・色えんぴつ・ポスカ 
	25	②▶フォトランゲージから学ぼう！ ・2つの国・地域の『地球の食卓』の写真を見比べて、それぞれの豊かなところ、持続可能でないところを出し合う。 (2つの国はアメリカとエクアドル、2つの地域は東京と沖縄)		
	10	③▶「豊かさ」「持続可能」について話し合おう！ ・経済的な豊かさだけでなく、暮らす国や地域によって「豊かさ」の価値観が異なることに気づく。 ・いまの自分たちの生活は、「持続可能」ではないかもしれないということに気づく。		
	25	④▶「持続可能」と「豊かさ」をキーワードに未来の「暮らし」を考えてみよう！ ・持続可能で豊かな〇〇と題して、将来どんな暮らしをしたいか、どのように暮らすことが望ましいかなどを考え、絵で表現する。例) 持続可能で豊かな「家」・「食卓」・「高校生生活」・「育児」・「オシャレ」などなど。		
	15	⑤▶いま私たちができることって何？ ・自分たちにできることは何かを考える。		
	5	⑥▶まとめ		
成果	・「豊かさ」「持続可能」について考えさせることができた。 ・少人数グループ、参加型学習だったので、受講者全員が主体的に取り組むことができた。 ・いま自分たちにできることを具体的に考えさせることができた。			
課題	・前半①～③に時間がかかってしまい、④以降の時間が足りなかった。 ・④は、持続可能で豊かな〇〇の例)としていくつか挙げたが、難しかったらしく、「持続可能で豊かな街」とテーマを設定したら、ワークに取り組むことができた。			
備考	国際協力部の生徒たちは、日頃から途上国や海外のニュースに興味を持ち、新聞、本、雑誌等を読んで知識のインプットはしているが、今回のようなアウトプットする機会があまりなかったため、今後も少しずつ増やしていきたいと思う。とても興味深そうに、真剣にワークに取り組んでいたのが印象的だった。			

タイトル

遠いブラジルが身近に感じるとき

C
17

実践場所	愛知県	県立東海商業高等学校	実践者	鈴木 美保子
対 象	高校3年生		時間数	4時間
担当教科	商 業		実践教科	マーケティング
ねらい	・ブラジルに対しての理解を深めていくことにより興味・親近感がどのように変わっていくかを感じる。 ・「何事にも興味を持って理解していく」ということがいかに人生を豊かにすることに繋がっているかを知る。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	「今のブラジル感」 ・現在のブラジルに対して知っている事の確認。 〈国旗・どこにある・人・食べ物・音楽・・・〉 グループになり、まず、個人で知っていることを一つずつ書いていき、グループでシェア共有する。→発表→基本的な知識を確認する。 「日本探し」 ・ブラジル海外研修の記録写真をみる。その中から日本に関係するものを見つけていく。→グループで確認共有する。		・KJ法
	2	・グループで見つけた 日本 について話し合う。		・パワーポイント
	3	なぜ？ 誰が？ どうして？ 何のために？ ... 「日本人移民について」 ・日本にきている里帰り日系人について考える。 ・日本からブラジルに渡って行った日本人たちについて考える。 ・簡単な日本人移民の歴史を知る ・グループで感想をまとめる		
	4	「アマゾン＆アグロフォレストリーについて」 すべてグループで話し合い、全体で共有していく。 ・地球の 肺 はどこ？ ・肺は今、どんな状態？ ・アグロフォレストリー て何？ 「今のブラジル感2」 ・知った事、まだまだ知りたい事の確認 ・自分の中で何が変わった？ ・豊かな人生 とは何だろうか考えて一言発表。		・ブレインストーミング ・パワーポイント ・ブレインストーミング
成 果	・1000 枚以上になる写真からブラジルの中の日本をみつけ日本との繋がりを考えることができた。 ・移民した日本人、その後の日系人たちの生活を知ることができ、振りかえって日本人らしさとは何？と考えることができた。 ・アグロフォレストリー、また、その関連商品に興味を持ち、マーケティングの素材として話し合いを持つことができた。 ・知ることによってブラジルとの距離が短くなるのを感じ、『知る』ことの大切さを知った。			
課 題	・写真が多すぎてまとめきれない。精選に時間と工夫が必要。 ・伝えたい分野ごとにテーマを区切り、数回に分けて実施できる授業時間が確保できるとよい。			
備 考				

IV
実践報告シート

タイ
トル

「豊かさ」と「幸せ」の条件

C
18

実践場所	愛知県	県立南陽高等学校	実践者	森 典彦
対 象	2年生(総合探究系列選択者)		時間数	4時間
担当教科	英語	実践教科	総合探究入門、ワールドスタディズ	
ねらい	・「豊かさ」や「幸せ」にはいろいろな形があることに気づき、肯定的に受け入れる。 ・わたしたちの暮らしの持続可能性について、世界とのつながりを意識しながら考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	・わたしの幸せな瞬間ベスト3 各自「わたしの幸せな瞬間ベスト3」を用紙に書く。4～5人のグループを作り、自分の意見を発表する。 <u>ランキング</u> ・なりきりブラジル人 何人かのブラジル人の自己紹介文を読み込み、本人になりきったつもりで自己紹介をする。 <u>ロールプレイング</u>		実践の1回目と2回目は、連続した時間帯で行われる。 <u>必要準備物</u> 付箋紙×4セット 模造紙×4セット 磁石 マーカー
	2	・「ワタシの幸せ」と、「あなたのシアワセ」 自分たちがどんなことに幸せを感じるか、ブラジルの人がどんなことに幸せを感じるか付箋紙に書き出す。 <u>ブレインストーミング</u> 付箋紙に書き出したものをマッピングする(X軸方向:(←)個人的(→)社会的、Y軸方向:(↑)持続的(↓)瞬間的。 <u>二次元軸表</u> ・「幸せの条件」を考える 1人1人が幸せであるためには、何が必要か各自でランキング表を作り共有する。 <u>ランキング</u>		
	3	・アグロフォレストリーってなに？ 教員がブラジルのトメアスを紹介する。アグロフォレストリーについての理解が深まるよう説明する。 <u>フォトランゲージ</u>		実践の3回目と4回目は、連続した時間帯で行われる。
	4	・「トメアスの未来を考える会」開催！ パームやし畑の拡大とアグロフォレストリーの維持、どちらを選択すべきか悩む農園主を中心に、トメアスの未来を考える会議を開催する。 <u>ロールプレイング</u> ・トメアスの未来予想図 会議の流れをうけて、30年後のトメアスがどのようなになっているかを各グループで絵にして発表する。		<u>必要準備物</u> アグロフォレストリー チョコレート×2箱 パソコン(プレゼン資料)
成 果	生徒に価値観の違いを実感させることができた。生徒に経済問題と環境問題の関係について考えさせることができた。生徒がブラジルに関心を持つきっかけを作ることができた。			
課 題	年間のカリキュラムの中で、生徒たちにどのようなことを気づかせ、どのような力をつけさせていくのかをよく検討・計画したうえで授業実践を行っていきけるようにしたい。			
備 考				

タイトル

私は幸せだよ

C
19

実践場所	愛知県	県立木曽川高等学校	実践者	森 律子
対 象	高校1年生1クラス(40人)		時間数	2時間(45分×2)
担当教科	英語		実践教科	英語I・LT
ねらい	・ 文化の多様性を知る。 ・ 価値観の共通点を知る ・ 価値観の多様性を体感する。 ・ 自分の価値観を認める心を養う。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	1. アイスブレーキング「えっ、どうして」(シミュレーションゲーム) ボディランゲージが違うグループを作り、意志疎通の成功と失敗と、快と不快を体験する。 ベンガル人の「承知しました」 日本人の「いい子だね」 感じたことをグループで話し合い、発表。 2. 「 K氏 と ジョイスラム君 と 私」 フリードマンによる豊かさの指標を使って 「豊かさのレーダーチャート」を書く。 自分の現況を知る。		バングラデシュの物品 写真 ・「手食する人」、 ・「はい」のしぐさ 写真 ・「ジョイスラム君と まわりの人たち」
	2	1. なりきり自己紹介「私の夢」(フォトランゲージ) 1人1枚写真を持ち、写真を読む。 写真人物になったつもりで、グループで発表する。 2. まとめ(KJ法、ギャラリー法) ここまでで気づいた幸せの理由、幸せに必要なものを 付箋に書く。 グループで共有、分類、題付け。 クラスで共有。気づいたことの追加。 3. 振り返り 自分が幸せになるために、必要なもの、ことで、今日から実行しようと思うことを3つ書く。発表。		写真 ・「ダンス」 ・「この子には良い人 間になって欲しい」 ・「子どもと渡辺さん」 ・「宇宙飛行士になり たい」 ・「ここでは学べる」 ・「アラムさん」
成 果	普段の生活の中で、仲間や助け合いの大切さを言い聞かせていたせいか、人のつながりの重要性に気づいた生徒が多かった。また、バングラデシュの品物を見たり、人々の笑顔を見たりすることで、バングラデシュの文化や心の豊かさに気づいた。			
課 題	アイスブレーキングに時間がかかった。また、日本とバングラデシュの輸出入、援助の関係まで踏み込んで、変わりゆく幸せの姿に言及できれば良かった。			
備 考	資料写真 ・JICA 中部 教師海外研修参加者による写真集 2011年 資料 ・「 K氏 」 NIED・国際教育理解センター作成資料 ・「豊かさのレーダーチャート」開発教育協会『貧困と開発―豊かさへのエンパワメント』2005年			

IV
実践報告シート

タイトル

おやつをとおして世界を知ろう！

C
20

実践場所	静岡県	三島市民生涯学習センター	実践者	吉原 峰代
対 象	小学3年生から中学3年生		時間数	30分
担当教科	アース(明日)カレッジ東部ネットワーク		実践教科	—
ねらい	・インドネシアの子どもの生活写真を通して、クイズ形式で気づきを促す ・聞いて、見て、食べてインドネシアに想いをはせ疑似体験をする			
実践内容	回	プログラム	備 考	
		・インドネシアってどこにあるの？ ・インドネシアの子どもたちの朝は早い！？ (部屋を暗くして、朝4時頃の疑似体験→アザーンとは？) ・モスクとはどんな所？ ＜クイズ形式で質問＞ ① 子どもたちは朝起きたら何をする？ A:朝食の準備 B:お祈りをする ② 学校へ行くのは何時？ A:8:00 B:7:00 ③ 学校のトイレはどっち？ A:和式 B:洋式 ・日本の学校と、どこが違うかな？ ・学校帰りに、どんな所に寄り道するのかな？ ・いろいろなおやつの紹介 (どんな所で売られているのかな？) ・インドネシアの代表的な揚げせんべいはどんな物？ (えび・木の実→素材写真)) ・せんべいの写真を紹介(食事と一緒に食べるよ！) ・食べてみましょう！ ・まとめ (感想を書き出し、発表)	パワーポイント ・白地図 ・アザーンを流し説明 ・写真 ・留学生の協力を得て解説も分担していく パワーポイントで作成したクイズ ・写真 ・A, Bに分かれ答える ・写真を見ながら、グループで話し合い、発表する(付箋&模造紙) ・ナシゴレン、ガドガドなど ・インドネシア、中国のお菓子&飲み物 ・アンケート用紙	
成 果	留学生の協力もあり、参加した子どもたちが文化(食)、生活習慣などの違いに気づくことができた。知らなかったインドネシアという国に興味・関心を広げることができた。留学生と楽しく交流ができた。			
課 題	インドネシアのイスラム文化や子どもたちの生活の中で、なぜお菓子が副食なのか？なぜ学校に置いてあるのかなど、日本では考えられない違いを深く伝える必要を感じた。 (内容の追加・実践時間の変更などを検討して取り組んでいきたい)			
備 考	インドネシア・中国の留学生に入ってもらったおかげで、楽しく交流できて非常に良かった。(いろいろな国の人と交流できるのは、良い刺激となるので外国人を交えて取り組む機会を少しでも多く持ちたいと思う)			

タイトル

「しあわせ」を考えよう

C
21

実践場所	三重県	四日市市立富洲原中学校	実践者	若林 一道
対 象	中学3年生		時間数	1時間
担当教科	英語		実践教科	英語
ねらい	・自分のしあわせと自分以外の他人のしあわせを比べ、多様性を知る。 ・一人ひとりのおかれている状況によって、しあわせが違うことを考える。 ・困難な状況の中でも、しあわせを求め生きている人がいることを知り自分ができることを考える			
実践内容	回	プログラム	備 考	
		○ アイスブレイキング ・ 自分がしあわせと思うことをできるだけたくさん考える。 ・ 自分がしあわせと思うことをグループの中で発表する。 ○ グループごとに1枚の写真を選び、その人のしあわせをグループで考える。(フォトリランゲージ) ① 末期ガンのおじいさん ② 児童労働で働いている子供 ③ ホームレスの人 ④ 子育てをしている若い母親 ⑤ ストリートチルドレン ⑥ セレブ ⑦ 少年兵 ⑧ 東日本被災地のガレキの中の人 ・ 一人ひとりのおかれている状況によって、しあわせと思うことが違うことを考える。 ・ 困難な状況の中でもその困難と向き合いながらも、心の持ち方次第で、しあわせを感じることができる。 ・ 普段は考えない当たり前のことの中に、しあわせがある場合もあることを考える。 ○ youtube 動画「東日本大震災 知られざる英雄たち unknown heroes」の中のいろいろなつづやきを見て考える。 ① 小さい子がゲームを買うために貯めていたお金を全部、被災地に寄付するとつづやいた。 ② 小さい子が津波を逮捕すると外へ飛び出した。 ③ 「無理しないで」と被災地で働く夫にメールを送った妻、「こんな時に無理しないでどうする。自衛隊をなめるな！」と返事。 ④ 父が「福島原発のボランティアに行く」と言った。命がけの父の姿がかっこよく見えた。 ○ 感想を記入する	・学習シート ・自分のことを何でも話せる安心できる雰囲気を作る ・思いついたことをどんどん書いていく ・ステキな答えはどんどん紹介していく。 ・自分たちの日常を通して、自分ができることから行動している人がいることを知ってもらいたい。 ・また、行動できる人は特別な人ばかりじゃなく自分たちとあまり変わらない普通の人であることを知り自分の中に可能性があることを知ってもらいたい。	
成 果	・多くの生徒がしあわせの多様性について考えることができた。また、厳しい現実を抱えているほど日常のごく当たり前のことにしあわせを感じることができることに気づけた。そして、「今、生きている」ということ自体がすばらしいしあわせなことだと多くの生徒が気づけた。また、「自分が自分らしくいられること」と答えた生徒もいて、子どもの人権に発展できる可能性も感じられた。			
課 題	・いろいろな厳しい現実を抱えた人と自分たちはつながっているという実感を子どもたちにもっと持たせたい。また、自分たち一人ひとりはとても小さく無力な存在かもしれないけど、一人ひとりが行動することで、世界は変わっていく。だからこそ、日常的な行動にどうつながっていくか。			
備 考	・たとえ、短い時間でも参加型の学習を通して、普段とは違う視点で自分たちの身の回りや広い世界を見ることで、子どもたちは確実に変わっていくことを感じた。 ・1学期の「世界で一番大きな授業」などでの貧困等の学習を受けて、2名の生徒がフェアトレードと東日本大震災のテーマで、英語のスピーチコンテストに参加してくれたことはとてもうれしいことでした。			

IV
実践報告シート

タイ
トル

世界とつながるわたしたち

D
22

実践場所	岐阜県	岐阜市立三里小学校	実践者	大橋 飛鳥
対 象	小学5年生		時間数	5時間
担当教科	小学5年生担任		実践教科	総合的な学習の時間、社会科
ねらい	・ 日系ブラジル人や、移民の歴史、現在のブラジルと日本の関係について知ることで、日本とブラジルに様々なつながりがあることに気づく。 ・ 日本と世界のつながりを考えながら、これから世界とどうつながっていくべきか考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	ブラジルにある日本を知ろう ○「どっちが日本？どっちがブラジル？クイズ」を通して、日本から遠く離れたブラジルに、日本の文化がたくさん見られることに気づく。 ○「だれが日本人？だれがブラジル人？クイズ」を通して、ブラジルには「日系ブラジル人」という人々がいることを知る。		・パワーポイント資料 ・写真(10種類) ・顔写真(16枚)
	2	ブラジルと日本のつながり ○日本人がブラジルに渡って、現地に永住している現状を知る。 ○移民の歴史を知る。(動画) ○現在におけるブラジルと日本の関係を知る。		・顔写真(前時使用) ・動画(5分でわかる日本・ブラジル移民100年の歴史)
	3・4	日本と世界のつながりを考えよう ○「貿易ゲーム」を通して実際に貿易を体験することで、世界には豊かな国と経済的に貧しい国があることを知り、不平等感を体験する。		・写真 ・貿易ゲーム ・振り返りシート
	5	わたしたちにできることは何だろう ○食料自給率が低い日本が、外国に輸入を頼っている現状を確認する。 ○チョコレートランキングを行う。 ○チョコレートの原料であるカカオの生産に関わって、世界で起きている問題(ここで取り上げたのは主に、環境問題と児童労働)があることを知る。 ○様々な問題を解決しようとしている取り組み(アグロフォレストリー、フェアトレード)があることを知る。 ○世界の中で生きるわたしたちにできることはどんなことか話し合う。		・食料自給率のグラフ(社会科の教科書) ・チョコレートランキング ・パワーポイント資料 ・カカオ畑で働く兄弟の動画(世界がもし100人の村だったらより)
成 果	ブラジルという国を通して、子どもたちの世界に対する興味を広げることや、世界と日本とのつながりを知ることができた。また国を知るだけでなく、日本という先進国に自分が住んでいるということ、発展途上国では支援を必要とすることを考えるきっかけになった。			
課 題	社会科の学習と絡めて進めていく予定だったが、単発的な実践になってしまった。教科学習と絡めていくと、子どもたちの興味や学びがもっと広がると考える。また、今後も子どもたちの世界観を広げながら、世界とのつながりを意識していくために、継続的な実践が必要である。			
備 考	この実践の他に、子どもたちの世界観を少しでも広げていけたらという思いから、朝の会の「先生の話」のときに、教師が世界で撮影した1枚の写真を見せて、国紹介をしている。			

タイトル

学校に行きたい！行けない！～私と世界の仲間たち

D
23

実践場所	愛知県	大府市立共和西小学校	実践者	加藤 克也
対 象	小学 6 年生 44 人		時間数	3・4限(90分)
所属	青年海外協力隊OB		実践教科	
ねらい	世界(途上国)で暮らす子どもたちの現状について知り、気づき、自分たちができることを考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
		①異文化を体験してみよう(グループ分け) 紙を配り、書かれた国の言葉であいさつをして、同じ言葉の人で集まってグループを作る。		8カ国のあいさつ紙
		②世界にはどれだけ の国があるの？ グループで知っている国名を書けるだけ書いて発表。		白紙の紙
		③ウガンダ紹介 クイズをしながらウガンダの国を紹介とスライドショー。		クイズの紙
		④日本とウガンダの小学校を比べてみよう！ ウガンダの小学校の写真を見ながら、日本の小学校との違うところ・同じところをグループで紙に書き出して、発表。		ウガンダ小学校の写真
		⑤学校に行けない子どもの例(少年兵) 短編映画を見て、最後に主人公が泣いた理由を考える。		DVD(それでも生きる子どもたち)
		⑥なぜ学校に行けない子どもたちがいるの？ 絵を見て、子どもたちが学校に行けない理由を考えて書く。		記入シート 絵
		⑦学校に行けないとどうなるの？ 学校に行けないとどうなるのかが書かれた項目の紙を配り、順番を考えてながら並べてもらい、連鎖の輪を作る。		貧困原因の紙
	⑧自分たちにできることを考えよう！ 途上国の子どもたちが健康で安心して暮らすために、自分にはどんなことができるのか考えて一人ひとつ紙に書く。		紙	
成 果	・多くの生徒が積極的にグループワーク等に参加してくれていた。 ・先生方の協力もあり、最初のグループ分けがうまくいき、その後のグループワークがスムーズにいった。			
課 題	・プログラムを詰め込みすぎたので、時間配分の調整をもう少し考える必要があった。 ・機械トラブルが少しあったので、事前に確認する必要があった。			
備 考	・子どもたちの感想より、映像による影響の大きさを感じた。			

IV
実践報告シート

タイトル

世界旅行に出発！（アフリカ編）

D
24

実践場所	愛知県	江南市立北部中学校	実践者	河合あずさ
対 象	中学2年生		時間数	2時間
担当教科	食育		実践教科	学級活動
ねらい	アフリカの生活(主に「食」の面から)に触れることで、私たちの日本の生活について振り返る。			
実践内容	回	プログラム	備 考	
	1	○ゲーム「世界がもし 100 人の村だったら」 ・読み書きできないってどういうこと？ ・食べ物から考える食糧分配の不均衡。 ○先進国・開発途上国って何？ ・世界中には、日本とは違う国がたくさんありそうだ。 ○アフリカではどんな生活をしているの？ ・アフリカ諸国の生活を知る(南部アフリカを中心に)。 どこに住んでいるの？ 言葉は？ 学校には行っているの？ 何を食べているの？ ○私たちの生活との共通点・違うところはどこだろう？ ○次回の予告(食文化からアフリカに迫ろう)	人造語で書かれた契約書 飴 <	

タイトル

グローバルゼーション～くるくるまわる地球

D
25

実践場所	愛知県	国際理解教育基礎講座	実践者	田口 裕晃
対 象	一般(国際理解教育に興味のある人)	時間数	6時間	
所 属	NIED・国際理解教育センター	実践教科		
ねらい	・グローバルゼーションから受ける「光」と「影」について考える。 ・貧困・環境・人権など地球がかかえる様々な問題が相互に、また同時に私たちにつながっていることに気づく。 ・個々の問題が、目に見える現象だけ何とかすればいいというものではなく、 ・様々なアプローチを行わないと解決に至らない場合があるということに気づく。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	10 時	＜グローバルゼーションの内容とグローバルゼーションの恩恵を理解する＞ ○名刺であいうえお他己紹介 ○グローバルゼーションとは何か ○グローバルゼーションの恩恵を考える		「情報」「人」「モノ・お金」のグローバル化データカード
	11 時	＜グローバルゼーションメリット・デメリット＞ ○グローバルゼーションの課題・デメリット ○数の国で起こっている同じ課題・問題とその問題が起こった理由を考える。 ○その問題とグローバルゼーションとの関わりは何か ○グローバルゼーションメリット・デメリットを考えてみての気づき		
	13 時	＜“貧困”“格差”からみるグローバルゼーション＞ ○チョコレートクイズ ○ガーナのカカオ農家と日本の家族を体験するシミュレーションゲーム ○カカオ産業の児童労働の現状と取り組みについてDVDを見る。 ○私たちに出来ることは？：ダイヤモンドランキング		ACE の教材 「おいしいチョコレートの真実」
	16 時	＜それぞれの課題の全体像をつかみ、アクションを考える＞ ○システム思考についての説明 ○課題をグループで決め、システム思考で分類する。 ○課題にどう切り込むか、何が出来るかを考え、アクションプランを考え発表する。 ○まとめ		
成 果	自分の身近な問題として捉えづらいことではあるが、それを身近な問題、自分自身と強くつながりがある問題として捉えることができた。			
課 題	児童労働などの個々の課題を考えるだけでなく、グローバルゼーションの良い面、悪い面の両方をより深めていけるとなおよ。また、ダイヤモンドランキングを個人作業で終わらすのではなく、グループで1つの意見を出すようにすればよかった。			
備 考				

IV
実践報告シート

タイトル

JABA 心～尊重する力を育み、主体的な行動力を培う～

D
26

実践場所	静岡県	浜松学院中学校	実践者	中澤 純一
対 象	中学1・2年生		時間数	7時間
担当教科	社会科		実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	・ バングラデシュの風土や環境、社会的制度、生活習慣など日本との違いと肯定的に出会う。 ・ 貧困な状態にあっても人間の尊厳を守り、貧困から脱出するために努力している人々がいることを認識し、私達がどのような行動をすることができるのか開発・支援の立場から考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	バングラデシュってどんな国！？【異文化理解】 ねらい 世界には多様な文化があることを知り、それぞれの文化にはその土地の風土や気候、環境や産業、歴史や宗教等が深く関係していることを知る。 プログラム ① バングラデシュの位置確認 ② バングラ BINGO ③ 数字で JABA		1回 ①バングラ BINGO のクイズ内容は、国旗、食事、民族衣装、乗り物、教育、建物など。 ②数字で JABA では、数字上で日本（先進国）、バングラデシュ（開発途上国）、韓国（新興国）の違いを知ることによって焦点をあてた。
	2	貧困について考えよう！！【貧困】 ねらい 貧困の状況や原因は連鎖的に結びつき、悪循環を生み出していることに気付く。さらに、個人の努力だけでは、悪循環から抜け出すことが難しいことを知る。 プログラム ① 貧困 KJ 法 ② 1秒の世界 ③ めぐりめぐる貧困の輪 ④ 世界を変えるお金の使い方		2・3回 ②1秒の世界は、ダイヤモンド社『1秒の世界』を参考にした。 ③世界を変えるお金の使い方は、ダイヤモンド社『世界を変えるお金の使い方』を参考にした。
	3	バングラデシュの子どもたち！！【教育問題】 ねらい 途上国における同年代の子ども達はどのような生活を送っているのか、特にバングラデシュの教育システムはどのようにになっているのか知り、今、私達に何ができるのか考える。 プログラム ① 切り抜きフォトランゲージ～ストリートチルドレンとは～ ② バングラデシュの子ども達～ミヌさんのある日～ ③ バングラデシュの小学校の教科書を解く(英語) ④ バングラデシュの小学生からの贈り物		4・5回 ③バングラデシュの小学校の教科書を解くでは、現地で購入したものを元に、英語科教員と連携して実際に解かせた。
	4	バングラデシュの子どもたちとつながろう！！【国際交流】 ねらい 切り絵の作成を通し、日本の文化をバングラデシュの小学生伝える。完成した作品をバングラデシュの SIZUE MODEL JUNIOR HIGH SCHOOL に送ることでバングラデシュとの繋がりを感じる。 プログラム ① みんなで切り絵で富士山をつくろう		7回 模造紙サイズの厚紙を12等分にし、グループごとに各パーツを製作。葛飾北斎の『富嶽三十六景 凱風快晴』を作った。
	5			
	6			
	7			
成 果	授業を始める前は、バングラデシュという国を初めて聞いた生徒や地図上にどこに位置するのか分からない生徒が多かった。しかし、実践授業を通してバングラデシュに強い興味関心を示し、『(距離は)遠くても(心は)近い国』という意識が芽生えた。今後も、バングラデシュに関する授業実践を進めていきたい。			
課 題	バングラデシュを採り上げる中で、どこに焦点をあて、ねらいを絞るか苦慮した。限られた時間数の中で、プログラムの進行を潤滑に行い多くの情報を生徒に伝えるために、オリジナルのアクティビティを開発したり、既存のアクティビティに改良を加えるなどした。			
備 考	1～5回のアクティビティを公益財団法人浜松国際交流協会、JICA 中部、はままつ国際理解教育ネット共催による教員や一般を対象にした『国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座』(合計4時間)や浜松市内における小学生を対象にした公民館講座『国際理解講座』(全3回)(合計8時間)でも実践した。			

世界の中の日本 ～国際社会が抱える問題を通して～

D
27

実践場所	岐阜県	瑞穂市立本田小学校	実践者	堀 正樹
対 象	小学6年生		時間数	6時間
担当教科	5, 6年生社会科		実践教科	社会科
ねらい	・私たちが何気なく食べているもの、使っているものの中には、開発途上国の生産に支えられているものがあることに気づく。 ・構造的な不公平を疑似体験することで、不公平な状況にいる人たちの気持ちを理解する。 ・「難民」の存在を知り、「難民問題」に関する理解を深める。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	①	「世界の中のチョコレート」 ① 「チョコレート」がカカオからできていることを知る。 ② カカオ生産量の多い10カ国とチョコレート消費量の多い10カ国を知る。(グループ作業) ③ 比較して気がついたことを交流する。		R社チョコレート 白地図 生産国、消費国資料
	②	「世界がもし100人の村だったら」VTR ① カカオ農園に出稼ぎに来ている児童労働の実態をVTRから知る。 ② 普段あたり前に食べているチョコレートが児童労働によって収穫されたカカオから生産され、私たちの国で消費されている実態について感想を交流する。		2006. 6. 3 OA 「世界がもし100人の村だったら」VTR
	③	「貿易ゲーム」		貿易ゲームセット
	④	① 貿易ゲームツールをもとに制限時間内に貿易の疑似体験をする。 ② ゲームのねらいと世界の貿易の現実について説明をして、感想を書き、交流する。		
	⑤	「今、地球でおこっていること」 ① 写真資料から、世界の「難民」について知る。 ② 「難民」について、クイズをもとに理解する。 ③ 「難民」の存在を知って感じたことを知って感想を交流する。		「難民」の写真 児童の日常の写真
	⑥	「難民のかばん」 ① 誕生日プレゼントに何がほしいか書く。 ② 「難民」が移動を強いられたことを疑似体験する。 ③ 気づいたことや感想を交流する。		誕生日のほしいものカード 「難民」のかばんシート
成 果	小学校6年生社会科「世界の中の日本」の単元の導入として、国際社会が抱える問題に気づき、解決の方法に関心をもつことができた。具体的な事実を捉えさせ、疑似体験を通して日本に住む私たちは、世界の多くの国の人々とともにどんなことをしていけばよいのかを、考えることができた。			
課 題	社会科の授業で単元の1つとして取り入れたため、国際理解教育を継続して指導していくことができなかった。総合的な学習の時間で国際理解教育を実践していない学校では、時間数が厳しい中、どのように継続した学習を行っていくのかを考えていく必要がある。			
備 考				

タイトル

バングラの未来 — 若い可能性をつぶすな！

実践場所	愛知県	県立大府東高等学校	実践者	前田昌美
対 象	高校1年生		時間数	4 時間
担当教科	英語		実践教科	LT・英語Ⅰ
ねらい	・バングラデシュの 10 代に関わる問題(ストリートチルドレン・早婚) について知る。 ・シュミレーションゲーム、ロールプレイを通して不公平な立場にある他者への共感を養う。 ・ロールプレイに必要な英語表現(命令・提案・主張)、ジグソーリーディングを通して英語を学ぶ。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	①	<u>バングラデシュってどんな国？</u> 1. クイズ形式で、バングラデシュについて知る。		パワーポイント
	②	<u>ストリートチルドレンに教育の機会を！</u> 1. なりきり自己紹介 2. シュミレーションゲーム ・あるストリートチルドレンの話 ・すべての発言に「ノー」—可能性がないことの辛さを体感。 ・渡辺大樹さん(エクマツトラ)の活動を話を聞く。		グループワーク 写真 カード
	③	<u>バングラ10代少女「どうして生きたいように生きられないの？」</u> 1. My future husband or wife ・英語で「性格・外見を表す単語」をグループで書く。 ・理想の結婚相手の顔を描き、性格・外見の特徴を書く。 2. Guessing the story ・三つの品物(写真・ベンガル語で書かれた手紙・台所用品)から想像される物語を、日本語・英語で考える。 ・英文で書かれた早婚についての話をジグソーリーディングし、内容を話し合う。		グループワーク ワークシート
	④	3. ロールプレイ ・それぞれ自分の役割で使う英文を作成する。 ・英語、日本語で家族会議を行う。 4. 早婚が起こす問題について知る。 ・ベンガル語で書かれた手紙の英語訳をキーワードを元に読む。 ・早婚問題について知る。		グループワーク ブレンストーミング 英文ストリップ ロールプレイシート List of speech act 英文シート
成 果	バングラの同世代に起こっている問題であるので、大変興味を持って授業に参加していた。ロールプレイやシュミレーションで他者への共感を高めることができた。また、グループで英文を読んだり、ロールプレイすることで英語共同学習のよい題材となった。			
課 題	実践時間がもっと多く取れると英語学習への動機づけとなったと考えられる。開発問題を英語で学ぶことで、国際語としての英語という位置づけを明確にできるといった。学年が上がればシュミレーション・ロールプレイを通して様々な英語表現を実際に使うよい機会になると考えられる。			
備 考	4時間の実践のうち2時間は英語学習の目的で行った。			

タイトル

割りばしから考える私達の課題

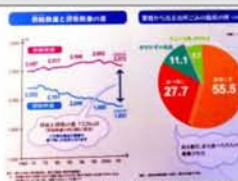
E
29

実践場所	長野県	長野県総合教育センター	実践者	島田 和代
対 象	小・中・高の教職員		時間数	2時間 10 分
担当教科	外国語(英語)		実践教科	国際理解教育講座
ねらい	・「割りばし」という身近なものから、私達及び世界の課題に目を向ける。 ・参加型学習を実際に体験し、国際理解教育のねらい及び授業における具体的な実践方法を知る。			
実践内容	分	プログラム		備 考
	20 分	自己紹介(アイスブレイキング) 1. 初対面のあなたへ4つの自己紹介 2. 勝手に他己紹介		A4 の用紙に各自書いてもらった後、グループ毎に自己紹介を行う。
	15 分	1. 地球規模の課題／地域の課題をあげてみよう ・グループで、模造紙に、地球規模の課題／地域の課題を書き出す。 ・各自、自分と関わりのある課題に○印をつける。		模造紙にグループごと 思いつくままに書き出した後、全体で共有する。
	15 分	2.なぜ問題は解決しないのだろう ・資料を読んだ後、随分前から地球規模の課題について言われているが、なぜよくならないのかグループで考える。		「数字に見る持続不可能な開発」の資料を読み、グループごと考える。
	15 分	3. 割りばしと地球規模の課題はつながっている ・1で出した課題のうち「割り箸(問題)」が関係すると思うものに線を引く。		グループごと考えた後、他のグループのものを 見て回って共有する。
	15 分	4. 買い物するときの優先事項は何？ ・自分が買い物をする時の基準を各自出し合い、グループでランキングする。		各自考えた後、グループごと話し合う。更に発表して全体で共有する。
	15 分	5. 割りばしの値段ランキング ・割り箸を見て、触って、値段の順位を決め、その理由をグループで考える。		用意された5種類の割りばしの値段のランキングを行う。
	20 分	6. 私達の課題、そして、私達にできること ・割りばしに関わる課題を見つける。更に、それらを解決するために自分ができることを考える。 ・グループごと、模造紙にまとめ、発表する。		グループごと自由に考えを出し合い、模造紙にまとめる。展示して、全体で共有する。
	15 分	アクティビティを振り返って ・参加型学習を通して感じたことをグループで自由に出し合う。		話し合いの後、ファシリテーターがポイントについて説明する。
成 果	1. 身近なものを通して、自分と世界がつながり、また相互に影響し合っていることを知ってもらうことができた。 2. 参加型学習の実践例を用いて、授業における国際理解教育の具体的な実践方法を知ってもらうことができた。学習プロセスを実際体験することにより、生徒の気持ちや気づきを体験してもらうことができた。			
課 題	参加型学習は、学習者の気づきと学習者間のコミュニケーションを中心に進めていくため、2時間程では、時間が足りなかった。グループでの話し合いが深まらないうちに次の活動に進めたり、こちらの説明のみで終わらせたりする場面があった。初対面同士が打ち解けて話し合いがもてるよう、アイスブレイキングも含めてもう少し時間に余裕をもって行いたい。			
備 考				

タイ
トル

食卓から世界を考える ～残飯ゼロをめざせ！～

E
30

実践場所	愛知県 名古屋市立名塚中学校		実践者	岡田 大祐
対 象	中学1年生	時間数	4時間 +α	
担当教科	美 術	実践教科	道 徳	
ねらい	昨年度、本校のスクールランチ残量調査では、一日あたり4kgから25kgの残飯が出た。食料自給率40%なのに食べ残す日本。栄養不足の途上国。自分を取り巻く世界の食料事情を知ることで、食べ残しに対する問題意識をもち、残飯をなくすための行動を起こす。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	30分	○ 健康な体は食事から。体育委員(男女5名ずつ計10名)が、日本や世界の食料事情の資料を読む。 ・ 8億5千万人が飢え、栄養不足のため5秒に1人、5歳以下の子どもが亡くなる世界の現状と、家庭の台所ごみの約4割がまだ食べられるものという日本の現状を知る。 ・ ランチルームから出る残飯の写真から、自分たちが食べ残しに対して、いかに無神経だったかに気付く。		 なごや地球ひろばの展示から
	3時間	○ 体育委員として、自分たちに何ができるか、みんなに何を提案したらよいかを考え、学年集会の準備をする。 ・ みんなに伝えたいことがらを選び、また、自分たちに何ができるかを話し合い、プレゼンテーションの準備をする。 ・ 配膳員の方に事前に相談し、協力をお願いする。		 1日さる3杯の残飯が出る
	30分	○ 道徳の時間に開く学年集会で、体育委員が、食を取り巻く現状を提示し、これから学年で取り組む内容を提案する。 提案① 配膳員の方に、ごはんの量を調節してもらう。 「大盛りお願いします」「減らしてください」 提案② 箸をつける前に、近くの人とおかずを交換する。 「少しもらってくれる人?」「パン1枚ちょうだい」 提案③ おかわりコーナーを用意し、欠席者のごはんやおかずをみんなで分けて食べる。		 今すぐに出ることを話し合う
	20分/回	○ 学年全体の取り組みにより、ランチルームからの残飯ゼロを目指す。 ・ 各自ができる範囲で提案①～③を積極的に実行する。 ・ 体育委員は、おかわりのクラス順とタイミングを伝える。		 残飯は確かに減った…が
成 果	ごはんの大盛りや小盛りを配膳員に告げたり、食べきれそうにないおかずを、箸をつける前に友達と交換したりする生徒が見られるようになった。また、おかわりコーナーの新設で、手付かずのごはんやおかずが、きれいになくなるようになった。これらの取り組みで残飯は激減した。			
課 題	食べ残しを捨てているのは、食が細くても「少しもらってくれない?」と誰にも言えず、「少しもらおうか?」と声をかけてもらえない生徒である。残飯をなくすには、一人一人が遠く世界を憂慮するだけでは不十分で、もっと身近な人間関係を築くことの大切さが浮き彫りになった。			
備 考	ランチルームで食事をするのは月に5～7日間程度。現在も体育委員の呼びかけで実践を継続しており、卒業まで取り組む予定である。本学年を皮切りに、新1年生が入学するたびに実践の輪を広げ、最終的には全校体制で残飯ゼロを目指したいと考えている。			

タイトル

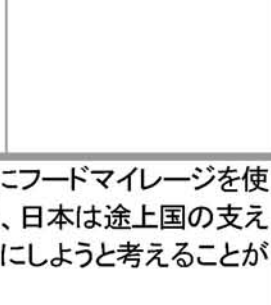
食料～それは限りある資源～

E
31

実践場所	愛知県	県立名古屋養護学校	実践者	瀧澤 聖治
対 象	高等部 1・2年生		時間数	10時間
担当教科	社会		実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	・ 食料問題を切り口にして、先進国と途上国の格差に目を向ける。 ・ 食料自給率が低い日本の現状を知る。 ・ 食料問題解決に向けて、自分たちができることを考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	「世界の食料事情」《フォトランゲージ》 ・ 栄養失調の乳児(コンゴ)と肥満の成人(アメリカ)の写真を見て、なぜこうした状況が起きるのかを考える。 ・ アメリカとチャドの食卓の写真を見て、国によって食生活が随分違うことに気づく。 ・ ハンガーマップと飽食マップから、先進国と途上国の食料に関する格差を理解する。		写真①「栄養失調の乳児」 写真②「肥満の成人」 写真集『地球の食卓』 ハンガーマップ 飽食マップ
	2	「日本の食料事情」《データランゲージ》 ・ 夕食についてアンケートをとり、食材の自給率を調べる。 ・ 日本の食料自給率について調べ、先進国の中で最も低いことを知る。		食品生産力研究所 HP
	3～7	「校外学習」 ・ なごや地球ひろばを訪問し、企画展を見たり説明を聞いたりして、食料問題についての理解を深める。		校外学習(なごや地球ひろば訪問) 企画展『食料問題を考える』
	8	「自分たちができること」 ・ 栄養教諭から給食が主に国産の食材を使っていることを聞く。 ・ 食料問題に関して自分たちができることを考える。		栄養教諭参加
	9・10	「高等部発表会」 ・ 今まで学習してきたことをプレゼンテーションにまとめて発表する。 ・ O×クイズを出して、他の生徒が食料問題について関心をもてるようにする。		高等部発表会
成 果	写真や地図を効果的に提示することによって、先進国と途上国の食料に関する格差をある程度理解することができた。また、夕食の食材など自分で調べることを通して、食料問題を身近にとらえることができた。校外学習で見た企画展は、食料問題の理解を深める上で有効であった。			
課 題	食料問題と一口に言っても、食料自給率やフード・マイレージ、先進国と途上国の穀物消費量の差など広範囲に及ぶ。限られた時間なので、学習内容をもう少し整理しポイントを絞る必要があった。そして、気づきから行動へとつなぐ次なるステップを考えなければならない。			
備 考	高等部発表会では、だれでも答えやすいO×クイズを取り入れ、問題を生徒が考えた。 【問題例】 ・ イチゴがよくとれて味がいいのは冬である。 ・ 輸入がストップすると肉料理は毎日食べられなくなる。			

IV
実践報告シート

★世界は私たちとつながっている★

実践場所	岐阜県	大垣市立江並中学校	実践者	野村 佳世
対 象	中学校2年生		時間数	3時間
担当教科	社会科		実践教科	社会・地理
ねらい	現代に生きる私たち、日本人は世界の中でもトップと言われるまでに経済発展した。なに不自由ない暮らしがあるのは、世界中からの支えを受けているからである。視覚を通じた活動を取り入れることで、世界と支え合っている自分の暮らしを見つめなおす。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1回	班活動～ ☆【私の好きな食べ物・料理は〇〇です♡】紹介をする。 班内で、好きな食べ物や料理を1人ずつ発表する。 ☆【私はどんな料理でしょうか？】ゲームをする。 班に1枚白黒印刷された写真をもらう。その写真から、料理の名前を当てる。 →写真は料理の一部分、カラー出ないため、すぐに答えがわからない。班で協力しましょう！！ ○写真を回して見たり、思い付きで話したりしたので、空気が和んだ。 ＜＜前回の宿題で広告（～産）の食品を切ってくるように言ってあった。 ☆【食糧自給率の高い国順に並べよう！！】 エクアドル、トルコ、日本、アメリカ＞＞主な食べ物表を配る。		
	2回	2人1組活動～ ☆【～産のものを国へ返そう！！（地図に貼ろう！！）】 ○国がどこにあるのかも探しながら、貼るので、既習の復習にもなった。 モーリタニアやフィリピン、メキシコは子どもたちにとって初めて聞く国であり、探すのに時間がかかった。 ☆【自給率を計算してみよう！！】 ○インターネットを使い、フードマイレージを計算する。POCO の説明をする。		
	3回	☆【日本の自給率について気付いたことを発表しよう o^v^o】 = 環境問題について話す。 ☆【世界は私たちとつながっている（JICA 提供）】の VTR を見せる。 ☆【感想】をプリントに書く。		
成 果	初めて聞く国名を地図で調べ、国名と位置を確認することができた。実際にフードマイレージを使うことで、環境への影響の大きさを知ることができた。ビデオを見たことで、日本は途上国の支えを受け生活できていることを実感し、自分たちの環境や周りのモノを大切にしようと思えることができた。			
課 題	班活動では人数が多くて、活動できない生徒もいる。2組のペアで活動できたら、個人でもっと考える力ができたと思う。活動と人数の割合については検討が必要。			
備 考	カラーペン、広告、地図、掛地図、写真、パソコン			

タイトル

食料問題 私たちにできること

E
33

実践場所	愛知県	名古屋市立西山小学校	実践者	古屋 幸子
対 象	小学校 5 年生		時間数	6時間
担当教科	小学校 5 年生		実践教科	社会
ねらい	わたしたちの生活と食料生産の関わりに関心を持ち、食料の安全性、輸入食料の増加など食料生産の抱える問題から、今後の食料生産のあり方を考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	安全でおいしい食材を ○買い物をするときに大切なことは何か、自分の考えをもとにグループで話し合い、発表する。 ○外国産・日本産と聞いて思い浮かぶイメージを話し合い発表する。 ○日本産の水はどれか、ペットボトル入りの水を飲み比べ違いを調べる。 ○日本の自給率を調べる。		フランス産、日本産、中国産、子ども農林水産白書 食料自給表
	2・3	わたしたちの食料生活の変化と食料生産 ○食料自給率40%の生活とはどんな食生活になるのか一週間の献立をたてる。 ○1日玄米4合の生活と、現代の食生活の変化を調べる。 ○日本の食文化と米の関わりについて調べ、食料生産のもつ意味について話し合う。		宮沢賢治「雨ニモ負ケズ」
	4	これからの食料生産について考える ○地産地消の取り組み、トレーサビリティとはどのようなことか調べる。 ○途上国への技術支援について考える。		土地利用の変化 農業で働く人数の変化 JICA「世界の食料」・途上国と先進国
	5	わたしたちの環境と食料生産 ○生産力向上のための環境保全について考える。		
	6	学習のまとめ ○これからの食料生産はどのようにしていったらよいのか、学習をもとに話し合う。		子ども農林水産白書
成 果	一人一人が自分自身の生活を振り返りながら考えをまとめ、友だちと話し合ったり疑問に思ったことを調べたりして、食料生産の問題について主体的に考えることができた。			
課 題	話し合うためには、自分の経験と新しい情報の整理が大切になる。資料の読み取りの力を高め、情報を選択することができる力を日頃から培ってゆく必要を感じた。			
備 考				

IV
実践報告シート

タイトル

コンビニ弁当から世界を見る

E
34

実践場所	静岡県	三島市国際交流協会の講座、 他、小中の出前授業で	実践者	安本和正 他3名
対 象	小学生～大人(国際交流に関心のある方)		時間数	当日は20～30分(完結版は 90～120 分)
所 属	微生物応用技術研究所 環境部 アースカレッジ東部ネットワーク		実践教科	—
ねらい	お弁当の食材を通して、日本の食料事情と輸入先(相手国)で起こっている現状に気づく。			
実践内容	回	プログラム		
	1. アイスブレイクとテーマへの導入 コンビニに行く回数や目的からコンビニと自分のかわりを考える。    2. お弁当の食材と輸出国を知る 国旗から見える国のイメージや文化に興味を持つ。    3. 食材をとおして、私たちの暮らしと、世界の現状に目を向ける。 キーワード⇒フードマイレージ、食のムダ、飢餓、貧困、自然破壊   			
成 果	講師の皆さんが、私以上に上手くこのプログラムを活用。短時間で参加者に気づきを促せた。			
課 題	それぞれの国の風土や文化を熟知しておく必要がある。特にイスラム教など。			
備 考	世界地図、紙風船、図書「コンビニ弁当 16 万kmの旅」、農林水産省 HP データ 共同実施者: 吉原峰代、蓑田竜史、植木さつき			

アマゾンの森をテーマにした参加型の国語の授業

E
35

実践場所	愛知県	名城大学附属高等学校	実践者	山西 淳子
対 象	高校 1 年生		時間数	4 時間
担当教科	国語		実践教科	国語総合
ねらい	・ 実際に世界で起きている問題について関心を深め、自分の考えを持ち、意見を述べる。 ・ 資料や他者の意見から、自分の考えを客観的に捉えなおす。 ・ 相手の立場や考えを想像し、効果的に話し、的確に聞き取る。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	「ブラジルについて知ろう」 ①アイスブレーキング。親しみを感じる国、その理由。 ②写真を見ながら、どこの国についての話題か考える。 ③ブラジルクイズ ④ブラジル海外研修の経緯説明。JICA について知る。 ⑤「世界の肺」というキーワードから、アマゾンについて考える。 なぜ森林破壊が進むのか、自分の考えを書いて提出。		・ パワーポイント ・ JICA の映像 ・ 書かれた作文を回収し、集約。
	2	「アマゾンの森について想像しよう」 ①ブラジルの写真を見ながら、前回の振り返り。 ②森林破壊の原因について、他の生徒の意見を見る。 ③実際は何が原因として大きいのか見る。 ④アマゾンに暮らす人々の生活について考える。		・ パワーポイント ・ ナショナルジオグラフィック 2007 年 1 月号、公式サイト
	3	「アグロフォレストリーの取り組みを知ろう」 ①前回の振り返り。 ②人々の生活と、環境を配慮した取り組みの実践を知る。 ③実際のアグロフォレストリーの写真や映像を見る。 ④感想や疑問点などを話し合う。		・ パワーポイント ・ JICA アグロフォレストリーの映像
	4	「ロールプレイを通して想像してみよう」 ①前回までの振り返りと今日の活動の説明。 グループになり、ロールプレイを通して、アマゾンで暮らす人の生活について想像する。 ②「幸せ」について考える。「何があれば幸せなんだろう」を考える。 ③グループ発表、感想記述。		 ・ ロールプレイの役割設定の用紙
成 果	・ 文章以外に、写真や映像を取り入れたことで、テーマに興味を持たせることができた。 ・ 資料を見せたり、話し合いをしたことで、新しい発見や気づきがあったと感想が寄せられた。 ・ 生徒の意見を反映しながら展開したことによって、積極的に授業に参加する姿勢があった。			
課 題	・ 予備知識が少ないので、ロールプレイの役割の説明以上の話ができなかったため、もう少し説明を増やした方が良かったかもしれない。 ・ ロールプレイの後、話し合いをするには時間をもう少しとったほうが良い。			
備 考	・ ブラジルに研修に行った理由やねらいを本音で語ることが重要だと感じた。 ・ ロールプレイは1クラスが限界だが、1～3は対象人数を問わない。(講演形式で実践。)			

タイトル

チョコレートでつながってる

F
36

実践場所	愛知県	県立東海商業高等学校	実践者	井上 紗由里
対 象	高校3年生 12 名	時間数	2時間	
担当教科	商業	実践教科	課題研究	
ねらい	・チョコレートをとおり、「世界とつながっている自分」を知る。 ・フェアトレードというものから、自分の行動が世界を変えられることに気付く。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	① チョコレートを知っている？(歴史・効用・作り方を知る)*15 クイズⅠ・・・カカオって、どれ？ ② カカオはどこ？(生産地・農場の様子を知る)*10 クイズⅡ・・・気になる？木になる？カカオ ③ 「チョコレート」って何？(児童労働)*20 チョコレートを知らない子供たちの存在を知る。		感想
	2	① チョコレートを味わってみよう*10 食べ比べて、値段順に並べる。 ② チョコをおなかいっぱい食べるには？*15 チョコレートの値段の内訳を考えてみる。 ③ Win Win になれないか？*15 カカオを生産している人たちにも利益があるためには？ ④ 一粒のチョコレートにできること*20 「フェアトレード」という仕組みを知る。 フェアトレードのメリット・デメリットを考える。		各チョコレートの感想 ランキング 一杯のコーヒー 分配図 ブレインストーミング(図) 対比表
		④ 世界がもし 100 人の村だったら*5		DVD
成 果	・身近なものが題材であったため、生徒たちは興味を示し、次第に意欲を持って取り組んでいた。 ・児童労働はどこか遠い世界の話だと考えていた生徒も、DVD を見終わったときには「自分にできる小さなこと」を考えるようになり、自分のこととして考えるようになっていた。			
課 題	・自分自身の知識の不足を感じた。初め男子生徒・女子生徒で温度差もあり、特に導入部分に注意してさらに生徒をひきつける内容を精選するべきだと感じた。 ・プロジェクターなどを準備するために時間がかかった。			
備 考				

タイトル

地域でできる国際協力 イギリスの多文化なまちづくりに学ぶ

F
37

実践場所	愛知県	知多市の国際理解講座	実践者	竹内 綾
対 象	一般(国際協力に関心のある方)	時間数	1 回講座(120分)	
所 属	知多市市役所 国際担当	実践教科	—	
ねらい	多様性を喜んで受け入れ、積極的に多文化共生の地域をつくりたいと考える人を増やす。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	10:00 (5 分)	ウェルカム ● 主催者あいさつ(市) ● 自己紹介		PC、スクリーン、プロジェクタ準備
	10:05 (20 分)	アイスブレイク ● 握手 de トレース: 1周目はできるだけたくさんの人と握手する。 2周目は、すでに握手した人の名前を呼びながらもう一度握手する。 ● 4つの私、1つはウソ: 自己紹介でグループの雰囲気づくりをする。		タイマー 裏紙、プロッキーペン
	10:25 (20 分)	アクティビティ①:「イギリス人は誰? - Who's British?」 ● クイズ: クイズ形式で、多様なイギリス人像に気づく。 ● 答え合わせ: パワーポイントで写真を見ながら行う。		問題カード えんぴつ
	10:45 (20 分)	アクティビティ②:「正しいモノを正しいトコへ Find the Right Place」 ● 「フォトランゲージ」: 地区(〇〇人地区)や建物名(和食レストランなど)などを書いたコベントリー市の地図を用意しておく。色々な料理や建物の写真を配り、正しいと思う場所に置いてもらう。この街には様々な文化が隣り合わせ存在していることに気づく。		写真カード、 問題シート(コベントリーの地図)
	11:05 (10 分)	アクティビティ③:「超多様地域(Super-Diversity)…ど〜なってるの!」 ● パワーポイント: 対象地域の文化的/歴史的背景と課題を話す。 ● ペア・リスニング: 気づいたこと、思ったことを共有する。		タイマー
	11:15 (25 分)	アクティビティ④:「多文化のまちづくりは“マッチ”づくり…!」 ● パワーポイント: まちづくりとして行われていることを話す。 ● ブレインストーム: グループで「多文化のまちにあるもの」を考える。 ● ポスターセッション: 他のグループと共有する。 ● まとめ		模造紙、プロッキーペン
	11:40 (20 分)	ふりかえり(シート記入含む) ● 共有: 気づきのハイライトに題名をつけ、グループで発表しあう。 ● ふりかえりシートを記入する		裏紙、プロッキーペン ふりかえりシート えんぴつ
成 果	ストーリー性のあるプログラム、興味を引きつける視覚的な補助教材、簡潔でシンプルなMC内容を心がけた。参加者からは「楽しめた」や「参加できた」などの感想が多かった。「多文化共生」にあまりなじみのない方もいらっしやったようだが、ポジティブな出会いを提供でき、手応えを感じた。			
課 題	アクティビティをつめこみすぎたため、内容を少し割愛しなければならなかった。最後のふりかえりの部分を削ったのだが、参加者自身のまとめとして入れたかった。また、準備に時間がかかってしまったので、今回の経験をこれからのタイムマネジメントに生かしたい。			
備 考	参加者に日本語が母語でない方が数名いたため、補助教材にフリガナをつけたり、なるべくやさしい日本語で書くよう心がけた。パワーポイントや問題カードなど、写真を多く使用し、アクセシビリティを高める工夫をすることができた。			

IV
実践報告シート

タイ
トル

バン格拉不思議発見～ぼく・わたしたちの可能性～

F
38

実践場所	静岡県	三島市立長伏小学校	実践者	諸井 法子
対 象	小学校 5 年生	時間数	5 時間	
担当教科	小学校 5 年生	実践教科	総合・道徳	
ねらい	1 バングラデシュという国について知り、比較しながら自分たちの生活を振り返る。 2 バングラデシュの実情と、日本との関わりを知り、自分たちの「可能性」について考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	【バングラデシュについて知ろう】〈フォトランゲージ〉 「バングラ不思議発見」 ①バングラデシュの位置・人口・広さなどの基本的な情報を確認する。 ②バングラ BINGO でバングラデシュの文化や物に触れる。 (指導者研修会報告用に作成したバングラ BINGO にスライドを足して作ったパワーポイントを使用)		・パワーポイント ・バングラ BINGO ・BINGO シート
	2	【生活を比べてみよう】〈分配円〉 「バングラライフとジャパライフ」 ①自分の1日の生活を振り返ろう。 ②バングラデシュの子の1日の生活を見てみよう。 ・各項目でポイントとなるところは隠して、バングラデシュの子の1日の生活をクイズ形式で考える。 ③自分の生活と比べてみよう。		・個人用の1日の生活シート(分配円) ・バングラデシュでアンケートをとった平均的な1日の生活表の拡大図(分配円) ・パワーポイント
	3	【課題について考えよう】〈フォトランゲージ〉 「バングラデシュの色々な姿～その1 ゴミ問題～」 ①写真から考えよう。 ・ゴミ山の上を歩く人たちの足元を隠し、想像して絵を描く。 ・実際の写真を見せて、気がついたことを書く。 ②日本との関わり ・支援や環境教育についてパワーポイントや動画を見る。		・動画 ・DVD『『向日葵と太陽』～発展という名の太陽に向かって』 ・パワーポイント
	4	「バングラデシュの色々な姿～その2 ストリートチルドレン～」 ①笑顔になる時ってどんな時？ ・たくさんの笑顔の写真を見て、自分が笑顔になる時はどんな時か考える。 ②ランキングづけをしよう。 ③写真から考えよう。 ・笑顔のストリートチルドレンの写真を最初は背景を隠して見て、その後背景を出して、ストリートチルドレンについて知り、考える。		
	5	【自分の可能性】 エクマツラの渡辺さんの生き方に触れ、自分の可能性について考える。(2月の参観日に予定)		・パワーポイント ・動画
	成果	・バングラデシュの映像や実物を見たり、現地で見えてきたことを聞くことで、海外への興味関心が高まった。 ・自分たちの生活と比較することで、文化の違いや習慣の違いなどにも気づくことができた。 ・途上国の課題に向かい合い、自分たちができることについても考えることができた。		
課 題	途上国の課題に向かい合ったことで、自分たちにできることを考えられたが、「やっぱり日本がいい」と感じる子も出たので、日本にはない途上国のよさを伝えるのは、年令がもう少し上がらないと難しいのかもしれないと感じた。			
備 考	第1時は土曜参観日に行ったので、たくさんの保護者の方や中学生にもバングラデシュの様子などを見てもらうことができた。			

タイトル

Boa tarde ブラジル～遠くて近い国 ブラジルから学ぶ～

F
39

実践場所	長野県	上田市立丸子中央小学校	実践者	村山 弘子	
対 象	小学校3年生		時間数	12時間	
担当教科	全教科		実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	・ブラジルの特徴を知る中でブラジルにも日本と似ているものがあることに気がつく。 ・ブラジルのそれぞれの物や人々を支えている熱い思いを知る。 ・自分の周りを振り返り自分を支えている心があることに気がつき、感謝の心を持つ。				
実践内容	回	プログラム		備 考	
	①	<u>ブラジルへ行こう！</u> (1) みんなで飛行機に乗る疑似体験をする。		シミュレーション 朝日の表紙	
	②	<u>ブラジルを知ろう！</u> (1) ブラジルってどんな国だと思う グループでディスカッションする。教室掲示		ビデオ ブレインストーミング によるイメージ図作り →掲示する	
	③	(2) 飛行機の上クイズ大会 国の広さ、国旗、使っている言葉、気候などの基礎知識を知る。 (3) 違文化の国での経験 「何考えてんだよ」 異なるルールを持つグループを作り不安・不快を体験		シミュレーションゲーム	
	④	<u>さあ いいよブラジルだ！</u> それぞれ全員にフォトを作り 個人→グループで日本の物、ブラジルの物・・・と分けていく。 全体への発表をする。 1 生き物 2 植物 3 生活 4 食べ物 5 人 答えをそのバックにある状況や現状と一緒に知る。		フォトランゲージ 生活は自分と比較 する生活表	
	⑧	それぞれ答えを発表 ブラジルの場合はブラジルとわかる背景等のある写真を利用			
	⑨	<u>思いを知ろう！</u> いくつかをピックアップしそれぞれの物や人の思いを知る。 チョコ(カカオ) アグロフォレストリー 蓮の花 ピラルク ドラゴン フルーツ アサイ 魚の養殖 原生林 子供たち 日系人等		ビデオクリップ	
	⑩	<u>自分の生活、自分の周りの物や人を振り返ろう</u> ・どんな人がいるかな。どんな物があるかな。→支えられえている自分		タイムライン イメージ図	
	⑫	<u>手紙を書こう</u> 自分が今まで支えてもらってきた人や今支えてもらっている人に手紙 を書こう。発表会をしよう。			
	成果	＊体験型学習を取り入れたことによって子どもたちがスムーズに学習に入っていくことが出来た。 ＊ブラジルについて学習し知識が増えていくことによってブラジルをより身近に感じる事ができた。 ＊ブラジルでがんばっているブラジル人や日本人や日系の人々の存在を知ることによって「自分も自分に出来ることをしてみよう。」という気持ちを持つことが出来た。 ＊アマゾンの自然豊かな世界を知り、自然を守ることの大切さを知った。 ＊この学習を通して自分を支えてくれている人がいることに気がつき感謝の心を持ったり、自分も人の役に立ちたいと考えられたりするようになってきた。			
	課 題	★これを機会にもっと国際理解をすすめたり、国際平和を考えていけたりできるようにここからの発展教材も少しあるといいなと感じた。			
	備 考				

IV
実践報告シート

タイトル

「私にできることはなんだろう？」

F
40

実践場所	愛知県	愛知淑徳大学	実践者	安田 なぎ子
対 象	大学1～4年生		時間数	1 時間(90 分)
担当教科	愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター		実践教科	入門ボランティア
ねらい	「青年海外協力隊」事業より、国際協力について、そして「自分には何ができるか」を考える。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	10 分	●ワーク①【1,000 万円で世界を平和にできるとしたら・・・？】 日本の政府から世界を平和にするために受け取った 1,000 万円をどのように使うか問いかけ、各自で考える。 ＜意見交換＞ ODAについて考える。		
	10 分	●ワーク②【青年海外協力隊は必要？】 クラスを半々に分け、A、B別々の新聞記事を配布。 A:『JICAボランティア参加者に外務大臣感謝状を授与』 B:『青年海外協力隊 アラブの春 待機手当に 1 億 4000 万円』 AもしくはBの記事を読んだ上で、下記の質問をする。 「協力隊は ①必要 ②必要ではない ③分からない」 今読んだのと別の記事を配布し、再度上記の質問をする。		
	25 分	●【青年海外協力隊体験談】 ジャマイカの様子、養護学校での活動内容を伝える。		
	5 分	●スライド【青年海外協力隊を通して得たことは何ですか？】 11 名の青年海外協力隊経験者より、上記の質問を一言で応えてもらい作成したスライドを流す。		
	10 分	●【国際協力とは？】 ・青年海外協力隊の活動は、日本の青年も大きく成長できる機会。 ・緒方さんの新聞記事『他国からの支援「受ける」のも国際協力』配布。		
	20 分	●質疑応答・感想記入		
成 果	「国際協力」、そして「自分にできること」を考えてもらうきっかけを作ることができたと思います。すぐに現れる成果ではありませんが、受講生がこの授業を通して、「考えさせられた」「もっと知りたい」「何か始めたい」という思いを持ってもらうことができました。			
課 題	自分自身の体験を通してのプログラム内容であったため、私だけの体験や考えだけを学生に伝えないようにという点に留意しました。けれど、まだ自分の中で協力隊の経験から現在に繋がられているものがないため、最後のまとめ(協力隊に参加したことへのまとめ)を考え、伝えることが今後の大きな課題です。			
備 考	このプログラムは取り上げた題材がとても難しい内容であったため、「入門ボランティア」という授業内で恩師のもと、母校で後輩達に向けたこと、そして現在私が勤務している大学であったため、実践できた内容であったと思います。			

タイトル

みんな 友だち

F
41

実践場所	愛知県	北名古屋市立五条小学校	実践者	山田 国枝
対 象	特別支援学級		時間数	4 時間
担当教科	なかよし学級		実践教科	生活単元
ねらい	(1) 世界には、いろいろな国があって、いろいろな人が住んでいることに興味を持つことができる。 (2) 生活の仕方や言葉が違うことに気が付くことができる。 (3) 違う国の友だちとも仲良くしようと心がけることができる。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1	バングラデシュの国のことを知らせ、文化の違いに触れる。 ・バングラデシュの学校の子どもたちが描いた絵を見せて、気がついたことを発表する。 ・ビンゴクイズをすることで、バングラデシュの文化を知る。 ・ベンガル語の朗読を聞き、英語以外にも国ごとにいろいろな言語があることを知る。 ・バングラデシュの教科書やノートを見る。 ・バングラデシュのお菓子を試食する。		・フォトランゲージ ・KJ法 ・ビンゴクイズ ・ベンガル語の朗読 ・バングラデシュの教科書・ノート ・バングラデシュのスナック菓子 ・パワーポイントによるスライドショー
	2	興味のある国の国旗や文化について調べる。 ・バングラデシュの写真を見る。 ・調べたい国について、本やインターネットで調べる。 ・国旗を作る。		
	3	異文化に出会ったときの気持ちを思い出させ、違っていることに対する気持ちを確認する。 ・「わたしと小鳥とすずと」の詩に出てくる小鳥やすずと自分を比べて、「みんなちがって みんないい」を体験する。		・ロールプレイ
	4	自分のこと(自分の国)をわかってもらえるように知らせる。 ・自分の興味があることや日本について知らせたいことを絵に描く。 ・学校の様子を手紙に書く。 ・バングラデシュの学校に送る。		・手紙と絵をバングラデシュの学校に送る
成 果	バングラデシュのことが書いてある本を見つけたり、他の国に関心を持つようになった。また、英語以外の言語(スペイン語)を話す友だちにも寛容な態度で接することができるようになった。			
課 題	「みんなちがって みんないい」(金子みすずの詩の一節)をクラスの標語として掲げて、何かつまずいたり、周りを批判的な目で見たりする時に繰り返し話をしている。「みんなちがって みんないい」のゲームをしたり、ロールプレイをすることでしっかりと体験をさせたかったが、学年が1年生から6年生までいること、短時間にルールを理解させることが難しいことなどがあり不十分であった。日常生活の中でできる簡単なゲームがあるといいと思った。			
備 考	「わたしと小鳥とすずと」金子みすずの詩			

IV
実践報告シート

タイ
トル

多様性 ～よいよいくらしをつくるガギ～

F
42

実践場所	愛知県	常滑市立常滑中学校	実践者	吉岡 稔
対 象	中学2年生		時間数	2時間
担当教科	選択英語		実践教科	選択英語
ねらい	① ブラジルにさまざまな人種・民族が暮らしていることに気付く。 ② 日本にはさまざまな人種・民族が暮らしていることに気付く。 ③ いろいろな人が暮らす社会を肯定的にとらえることができる。			
実践内容	回	プログラム		備 考
	1 (前半)	【導入】 実践者が『大切に思っていること』を、生徒と共有したいと思い、授業を考えてきたこと、また『実践者が大切に思っていること』とは何かを考えながら参加してほしい、と伝える。 【いろいろな人が暮らす国:ブラジル】 ・『クイズ:この国はどこでしょう?』…どの国で撮影されたものか当てる。 ・『クイズ:ブラジル人はどれでしょう?』…グループに5枚顔写真を配り、『ブラジル人』と『非ブラジル人』に分ける。ブラジルは、さまざまな民族から成る、多民族国家であることに気づく。【フォトランゲージ】		・スライドショー(SS) ・顔写真(5種類)
	1 (後半)	【いろいろな人のつくった、いろいろなもの in Brazil】 ・『マッチング・クイズ』…カポエイラ、サッカー、大豆(農業)、ファリーニャ(食べ物)、カーニバル、は、どのような人々がブラジルに根づかせ、発展させてきたのか考える。【フォトランゲージ】 【まとめ】・本時の感想を記入。		・SS ・映像、写真 ・実物(ファリーニャ、マンジョーカ芋、大豆) ・感想シート
	2 (前半)	【いろいろな人が暮らす国:日本】 ・『クイズ:日本に暮らしている人は誰でしょう?』…グループに5枚の顔写真を配り、『日本に暮らす人』と『日本に暮らしていない人』に分ける。日本にもさまざまな人種・民族が暮らしていることに気づく。【フォトランゲージ】		・顔写真(5種類)
	2 (後半)	【いろいろな人のつくった、いろいろなもの in Japan】 ・身の回りで、『外国にルーツをもつもの、日本人以外の人を作ったもの、発展させたもの』は何か考える。例) ラーメン(中国)、カレー(インド)など 【ブレインストーム】 【ポスターセッション】 【まとめ】 ・2時間の授業を通しての感想を考える。紙に1つのキーワードを書き、グループ内で感想を共有する。出た感想をもとに、自分の最終感想を記入。		・A 紙、ペン ・A4 白紙、ペン ・感想シート
成 果	想像していた以上に、生徒が意欲的に授業に取り組むことができた。 「実際にブラジルの様子を見てみたい」という声のように、ブラジルに興味と肯定的な印象を持つことができた。 さまざまな人種・民族の存在が、豊かな文化、スポーツ、食べ物をもたらすと気付くことができた。			
課 題	さまざまな人種や民族が暮らす社会の『プラス面』・『マイナス面』や、『どうしたら異なる文化を持つ人とうまく暮らしていけるか』など、この授業を前提に掘り下げて話し合う授業ができると更に良かった。 実際に、ブラジル人や日本で暮らす『外国』につながりをもつ人』に、授業に参加してもらえるとよい。			
備 考				

タイトル

やってみよう、多文化共生



実践場所	三重県	「国際理解セミナー」 県、三重大、JICA による共催	実践者	藤川 純子
対 象	大学生など 一般	時間数	全体で 2 時間	
担当教科	特別支援学級	実践教科		
ねらい	海外での生活体験やワークショップを通して、多文化共生社会の意味について考え、身近なところから差別を解消する取り組みを実践しようとする意欲や関心を持つ。			
実践内容	回	プログラム	備 考	
	全体会 分科会	「国際協力の現場から」 10 分 ブラジルでの生活体験を発表 「国際交流・国際協力～私たちにできること～」 60 分 ①「好きなもの4つ、ひとつはウソ」で自己紹介 ②自分の国を紹介するのに、自分だったら何を使うか絵に描いて紹介する。 ③多文化共生の意味について考える ④「差別」についての派生図を書く ⑤「差別をなくしていくには、どうすればいいか」をポストイットに書き、「国」「地方行政」「個人」のレベルで、分けて貼る ⑥ブラジルの「へいたいさんのぼうし」を新聞紙で折り、「マルシャ ソウダード」の歌を歌う。	ブラジル世界地図、 B4 写真パネル等 A4 紙、マーカー付箋、模造紙  古新聞紙、折り方、歌詞カード	
成果	差別や多文化共生についてよく学び、今後に生かそうとする感想が寄せられた。講座について、かなりの参加者に満足感を持ってもらえた。			
課題	事前調整がほとんどできなかったため、当日の時間配分がうまくできず、準備などでばたばたしてしまった。今後の参考にしたい。			
備考	発表者は、JICA 日系社会青年ボランティア(ブラジル、日系日本語学校教師)OG。			

IV
実践報告シート